明治[illegible]年十[illegible]月[illegible]十[illegible]日[illegible]（[illegible]）
明治二十[illegible]年十[illegible]月[illegible]十八日[illegible]

大正三年四月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百九十三號

婦人衛生雜誌

第二百九十三號目次

謹み畏みて

皇太后陛下の崩御を

哀悼し奉る

謹告

本月下旬に於て本會總會及び懇親會を開催可致旨豫告致し置候處
皇太后陛下　崩御成らせられ候に付き御遠慮申上げ暫く延期致すことに相成り候間此段御了承被下度候

大正三年四月

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第二百九十三號
（大正三年四月二十日發行）

講演

實用鼻相學

（福岡醫科大學學友會主催第一回通俗學術講談會講演筆記に據る）

醫學博士　久保猪之吉

私は人相學の研究も占も試みた事がありませぬから詳しい事は申されませぬ。唯私の専門である耳鼻咽喉科の側から、鼻相學を觀察して如何なる點を應用してよいか、鼻の中の病氣が外貌の上にどんな影響を及ぼすかと云ふ事に就て述べ、併せて少しく隆鼻術の事にも及ばうと思ひます。

さて、男女老若を問はず、人の最も目につきやすいのは鼻であります。人が健かなうちは、鼻の大切な事はあまり注意しませぬが、いざ鼻がなくなつたならば、大に困ります。こゝに一眼を失へる人又は一腕を失なつた人を見たならば、直ちにこれは戰爭に行つて國家のために奮闘して斃たれたのではないかと云ふ感想が起つて、多大なる同情を以て迎ふるでありませう。又西洋で學生とか紳士の中には顏に傷のある者が澤山あります。この、でこぼこのある顏が又西洋では大に尊敬せられまして、女にも好かれると云ふのです。この傷は眞劍仕合（決鬪と一般にいはるゝ）の時に切られたもので、これがあれば直ちに大學卒業のドクトルであると云ふ事が想像せられます、然るに不幸にして鼻のない人とか、鼻のあまりに低い人に對しては、誰しも同情を以て見るものはありませぬ。寧ろ嘲笑を以て迎ふるのであります。本人の苦痛はおそらく甚だ大なるものであらうと思はれます。印度では鼻の形で顏の善惡を分ちま

して、鼻の美しいのを美鼻型と云つて美人の最上となし、鼻の低いのを壺形と云ひます。それですから造鼻術も印度から始まりました事は歴史に明かであります。鼻をとつたならば顔の形が變り甚だみにくくなつて、人が美人として見ざるのみならず、却てこれを見る事をいやがります。この譯から、兩夫に見えざる爲に鼻を殺いで操をたてた例は東洋にも西洋にも澤山あります。昔サラセン人種が佛國に入冦した時に、或る尼寺に來つて、尼共を脅した事があります。その時尼のかしらは決斷ある人でありまして、四十人の尼の鼻を切り取りました爲サラセン人は爲す事なくして歸つたと云ふ事が歴史に書いてあります。これも鼻を殺いで操を全うした一例であります。

日本の落語「缺け鼻夫婦」と云ふのは次のやうな事がかいてあります、「或る人以ての外に煩ひ存命不定の時、女房を近づけて、此分ならば二三日中に死なむと思ふなり、あゝ名殘をしく候、又いかなる人にかそひ給はむと思へば是のみ心にかゝる、と云ふ、女房聞きてそれはお心やすくおぼしめせ、自然の事もあらば髮そり、後生一ぺんにして御跡を弔ひ申すべしと云ふ、男聞きて、それは滿足にて候、さりながら髮をそりても又はへるものなれば、同じくは我等が息の通ふ内にそもじの鼻そいで見せ玉へ、さあらば後敷家くら其外財寶一つも殘さず參らすべしと云ふ、それはやすき事とて、自づから鼻を殺いで見せける、此上は心にかゝる事もなしとて書置などをこまぐ〜として女房に渡し死するを待つばかりなり云云」、此も鼻によつて操を立つる證據を求めたるものであります。

人が自らの知つてゐる事を世間に吹聽する事を「鼻を高くする」と申します、又高慢な人を凹ます事を「鼻を折る」と云ひます。これ皆鼻の貴重なる證據であります。說文と云ふ支那文字の起原を書いた本があります。この本の中に鼻と云ふ字は自の下に田と廾とを書くが、その昔は自の一字のみで「ハナ」を意

味したもので、人が自らの事を「オレガ／＼」と鼻を指すから鼻と自とを同一にし、これより鼻の字起ると書いてあります。これも鼻の必要なる證據であります。

こゝに種々の人種を通覧すれば、鼻は高い方がよいと云ふ事は、一致して居ます。波斯人は、子供の時、親が鼻の先を撮んでのばすといふ事ですが、日本にもこの習慣はあります。唯ホッテントットと云ふ野蠻人は、子供の時から鼻を打つてつぶす習慣があるそうです。この國では或は操を立てると云ふ方面から此風習が來たのかも知れませぬ。

尙鶉衣と云ふ本に鼻の箴があります。

「見よや人の老いゆけば、目は遠山の霞たな引き、耳には鳥蟲の聲もうとく、口は冬かれの齒もおちて盛衰のあたりかなしみを催す。たとへ百年のつくも髪だに、鼻ばかりはかけもやらず、つぶれて用をかく事もなし。ひとり常盤の操を守りて時しらぬ山とも稱すべけむ云々。」

次に鼻の常形は如何。これは甚だむつかしい問題で高いのが普通であるか低いのが普通であるか分りませぬ。こゝに一寸解剖學上の命名を說明しますれば、大抵の人種には鼻の根のところに低い所があります。馬の鞍の樣でありますから鼻鞍（鼻の根）と申します。それから下の方へ續いて高くなつて居る所は鼻梁で、その兩側に屋根の形をなすのが鼻屋、鼻梁の先の最も高き所、卽ち鼻の先は鼻頭（準：：：漢の高祖は隆準の如し）、左右にある小鼻を鼻翼と申します。それから上脣の方へ通つた溝は鼻脣溝であります。

鼻はその形によつて、一、直鼻。二、凸鼻。三、低鼻。四、凹鼻の四に分ちます。

一、直鼻——これは鼻の根から鼻頭まで一直線になつたもので、この直鼻は或人種に特有でありまして、希臘人の鼻はその代表者であります。併し詳しく申せば、希臘人の鼻は眞の直鼻とは異つて、只に直鼻のみでなく、鼻鞍がなくて額から鼻頭まで一直線で

あります。斯樣な鼻は左右の視野が幾分か狹くなりますが、併しこれが世界の美人の型としてあります。希臘人の彫刻した大理石像は皆額から鼻筋が通つて居ます。例へば美の女神ベヌスの像であります。ベヌスの彫刻は世界中に有名のものが三つありまして、其中の一は佛蘭西のパリに、一は伊太利のフローレンスに、他の一はローマにありますが、何れも額の高さから一直線になつてゐます日本には希臘型の鼻は多くありませぬ。私は唯二三度見た事があるのみであります。

二、凸鼻――世界中どの國にもあります。日本にも澤山あります。鼻梁が幾分か曲線を描き横から見れば少しく高くなつて居ます。これの最も烈しいのは所謂鷲鼻であります。凸鼻の中で目につくのは猶太人の鼻であります。凸鼻の中高くなく低くなく中庸を得たのは羅馬人の鼻であります。それだから、か樣な鼻を見れば羅馬人の鼻と云ひます。

三、低鼻及凹鼻――此二は混ずる事があります、ベルツ先生の報告には日本人の鼻には美と醜との二種あつて高きは貴人に多く、身分の低きものは鼻も低い、而して高いのは猶太人の鼻に似て居ると云つてありますが、私も日本人には猶太型が多い樣に思ふ、また他の人の記載によれば、日本人の鼻は皆低鼻の中にいれてあります、實際低いのが多い樣に思はれます。

低鼻とは一直線をなして居つても、また一部分高くても構ひませぬ、只全體の屋根が低くつくられたものを云ひます、亞米利加の土人の鼻も低鼻に屬します。凹鼻は中には病的のものもあれども、こゝには之れはいれず、生れながらに凹めるものがあります、凹鼻の中にあまりひどく凹まつたのは屋根が取れて平かになり、鼻先のみ高くなつたのであります、これは殊に婦人の方に多い樣です、凹鼻と低鼻との中間に位するならんと思ひます。

野蠻人の鼻は一般に低い、然しホッテントットにては殊更に鼻を低くするに見れば、鼻の低いのが野蠻人

中での美人かも知れませぬ。凹鼻中で低いのは鞍鼻であります、獅子鼻などは此種に屬します、鼻は顏の何れの部にあるが最も普通であるかと申すに、獨逸家ヂユーレルの定めた處に依れば頭の頂きから頸のさきまでを四等分して平行なる横線を引き、頭の前後に七つの等分線を畫き、此横線の第二第三の間で前から第一と第二の縱線の間に鼻がはいつて、耳の高さと鼻の高さとが一致したものを普通の鼻となし横線の距離を色々に變化して色々の鼻の形を書いて見ました。

鼻の形は變化するものであるかどうか、すべて學問と云ふものは、人間の事をしらべるに胎生學即ち人間が母の胎内にある間に色々の器官は種々と變化し發達して行くが、其變化の有様を研究し、また下等動物からしらべて、此れから漸次高等の動物に進化して行く順序を研究することが必要であります、此等をしらべて見れば鼻相學もあまり大なる間違はない様です、下等な動物は臭ひを嗅ぐけれども、鼻と名のつくものはありませぬ只小さい孔があるばかりです、が高等になるに從つてだんだんと鼻らしいものが出來て來て、これがまただんだんと高くなつて來ます。魚類では只孔があるのみです、蛙となると餘程鼻に近よつて來ます。

『脊中より鼻筋の通るひきがへる』と云ふ川柳がありますが然し蛙の鼻は至極完全には出來て居ませぬ、鳥になるとや丶鼻がわかつて來ますが、猫ではすでに鼻の形が出來てそれから漸次高等になつて猿では人間に甚だ近よつて來ます、然し人間に至つて初めて鼻の形がはつきりとわかつて來るのです、之れより考ふれば、鼻は高い方がよい様に思はれます、小兒から大人までの鼻をよく觀察致しますれば、一般に小兒の鼻は低くて、年と共にだんだん鼻も高くなつて來るのです。歌麿のかいた山姥と金時の繪がありますが、それを見ますと山姥は直鼻を有し、金時の鼻は低くて先のみが飛び出て居ます、西洋人の或ものは日本人は小兒の時に喧嘩をして鼻を打たれて

低くなつたのだらうと云ひますが實は日本人の鼻は大人になつても西洋人程に發達しないから低いのです。日本人でも老年になりますと鼻の高い人が多くありますが、此は歯が落ちて、前歯の所低くなり筋肉が落ち込んで其爲めに鼻翼がくつついて鼻の孔が細長くなるから、尖りて見ゆるのであります。又學問をした人の鼻は美はしくして學問をしない人は鼻の形も整はない樣であります、此はどういふ譯かと申しますれば、學問をした人は顔の筋肉を多く用ひます、低くなるべき襞はます〳〵深くなり、高くなるべき鼻はいよ〳〵高くなつて顔は何となく引しまつて形も整ふのです、役者なんども美はしい鼻を持つて居ます、勿論鼻の美はしいものが役者になるのでありませうが、喜怒哀樂を常に表はす人は鼻の形も自然によくなります。

鼻の形は遺傳するものかどうか、此はたしかに遺傳します、親子にて氣象のよく似た人は鼻の形もまたよく似て居ます、ナポレオン家にては代々凸鼻であります、斯樣な次第でありますから、急に鼻を高くしやうと思つても高くなりませぬ、之れが鼻に價値のある處でありましやう、人種の事に就いては、前に述べましたから詳しくは云ひませぬが野蠻人は鼻が低く、文明の度が進むに從つて鼻もまた高くなります、人種が異るからでもありませうが顔の筋肉を多くつかふ人種はそれだけ鼻も高いのであります、日本人の鼻は猶太人のそれに近いと申しましても日本人の鼻の孔は西洋人の如く大きくなりません、西洋人では私の人さし指を鼻孔の中に入れて十分療治が出來ましたが日本に歸りましてからは日本人の鼻の中では小指でなければ十分療治が出來ませぬ、又日本人の鼻の孔は丸いと云ふ人がありますが、或はそうかも知れませぬ、古事記に鼻の孔より小豆が出た、それだから小豆の樣だと書いてあります、西洋人の鼻の孔は細長くて、下から覗けば二條の線の如く、日本人の其れは八字形をして居ます。

病氣にて鼻の形のかはる事は、皆樣既に御承知の事

と思ひます、鼻の中の病氣は皆鼻の形を變じ、其れが外に現れます、其最も著しいのは黴毒であります、鼻の形を見て大凡此病氣を想像する事が出來ます、それですから鞍鼻又は鼻の無くなつたものを嫌ふのです、鼻におできが出來ましても形が變ります、鼻の頭が正中線から側の方へ寄ります、此の事はやはり後で述べる人相學の中にあります。

今時の學問をした人でなくとも鼻によつて人間の精神及び肉體の狀態を想像することが出來ます。

次に鼻相學とは如何なるものであるか、人相學で(主に支那及び日本の)基になるものは醫者の學問と結びついて居ます、鼻の人相學の書に鼻は肺に關せりと云つて居ます、肺が虛なれば則ち鼻通ず、肺實つれば則ち鼻塞る、故に鼻の通塞を以て肺の虛實を見はす、此れが鼻相學の原則となるので第一條に書いてあります、故に昔の鼻相學も全く根據ないものではありませぬ、此に鼻相學中の主なるもの四五ケ條を述べて見ませう。

いゝい龍鼻　鼻の筋が上下に通り、左右に片寄らず、肉は厚からず薄からず、此鼻を有する人は一生幸福にして、高位高官に昇るを得べく、巨萬の富を積むを得とあります、西洋では此鼻は美人の型として居ります。

いゝい懸囊鼻　肉あつく、ゆつたりせり、富貴類ひなしと書いてあります、西洋の書には大鼻とかいてあります、韓非子に鼻莫如大、目莫如小、鼻大可小、小不可大也と書けり。

いゝい鷲鼻　尖りて細きは好んで奸計をなすとあり、西洋では大膽にして不敵な事をなすと云つて居ます。

いゝい偏鼻(鼻の尖の左か右かに片寄つたもの)　心まがり心配多く右にまがれば父を失ひ左に出れば母なくなる。

いゝい孤峯鼻(鼻のふくれた處尙一つあり。瓢簞形となる)

いゝい此鼻大なれども積財なしと。

いゝい露脊鼻(皮甚だ薄くなり骨の飛び出せるもの)　土無爲物零落縱然平穩也貧困。とあり頗る貧相の鼻であ

ります。

凹い鼻　財をなくし又品行わるしと書いてあります、これは惡い病氣を持つと云ふところから出たのでありませう、西洋でも低い鼻は輕卒にして品行わるしと云ひます、羅馬でも鼻のつぶれたのは姦淫の相であると云つて居ました、日本支那西洋共に一致して、居ます。

これを通覽しますれば高いのはよく、低きか曲つたのはわるきに一致します、かく低鼻は人相學上にもわるく、交際上にもよくありませぬから、これまで隆鼻術と云ふ事に就いて色々と工夫しました、印度人は額の皮をとつて鼻をつくりました、之れを印度法と申します。こゝに持つて來た寫眞は東京大學で故スクリバ氏がやられたのです、以太利人は腕の皮で鼻をつくりました、以太利法と申します、波斯人は撮みて高くします、近來開けたのは「バラフヰン」で高くする法であります、只「バラフヰン」を注射するのですが近頃日本でも大に流行して、東京の新聞にも美形隆鼻術と云ふ廣告は毎日多数に出て居ます「バラフヰン」を一定の注射器にて少しづゝ皮の下に入れて高くする法であります、隆鼻術の流行は隨分弊害もあります、注射の仕方がわるい爲そのさきが赤くなることがあります、或人はその部が黑くなつて、腐敗し取れて元の鼻よりかへつて低くなる事があります、また時として注射した「バラフヰン」はあちらこちら遊びあるいて、中には頬に流れて、こゝが高くなる事があります、これ等は材料のわるいのと、方法がよくないのと時期を誤つた爲です。

病氣の爲め鼻が鞍形に凹んだのがあります、これにも強いのと弱いのとあつて中には悉皆、ひつこみて鼻の界のわからないのがあります。

＊　＊　＊　＊　＊

之れから以上の鼻相學を醫學上より説明してみましやうに、鼻のさきの曲つた偏鼻は人相學上惡い様に書いて居りますが、之れは醫學上説明をつける事が出來ます、鼻の中には障子があつて左右の孔は別々

になつて居ます、障子は軟骨と骨とより出來て上から之れを壓しつぶしたと考へますれば鼻頭は左又は右にまがります、それだから鼻の條または屋根の曲つたのは、障子の倒れたのであります、これでどうして氣短くなり、不幸が來るかと云ふに、これは鼻中隔彎曲症と云ふ病氣で障子の仆れた爲め鼻の孔を塞いで通じが惡しくなり、神經障碍を起して神經衰弱症に陷りますこれまでの神經衰弱症中にはこれが原因となつて來たのが甚だ澤山あります、神經衰弱の人は氣短くなつて、喧嘩口論をなし、仕事を休み遂に人相學にいふ症狀となります、鼻頭の曲つたのは障子卽ち鼻中隔と一定の關係があつて、鼻頭が右に曲つた時には鼻中隔は左にまがり、問はすして頭痛などのあることがわかる、これは必要なる點で利用の出來る鼻相學であります。

次に鼻の根が膨れて瓢形となるは孤峯鼻で汽車の中などにてよく見る處であります、鼻の根膨れて鼻翼より廣いのであります、多くは鼻茸の出來た結果で或は、又鼻の病氣で骨が壓迫せられて骨自身が增大した爲めであります、鼻には脂肪は少いから、體が甚しく肥滿して頬がたれる樣な人でも、鼻は膨れませぬ、只體の他の部分が健全になれば鼻も榮養が良くなつて、ふくらみを持つて來ますによりて盛裝鼻は古より衣食十分なる人にあります、これが健康狀態を示すものであります。

鋭脊鼻　肺結核の末期に瘦せて、鼻の骨が稜々として飛出します、これはよくありませぬ、體にどこか惡い處のある人に多く、これも昔の人相學は間違つて居ませぬ。

鼻頭の赤くなるは、人相學にはないけれども、昔より酒を飲む人にあると云つて居ます、これは酒皶鼻と云ふ一種の病氣で、形には關係はありませぬが、鼻の色も見ねばなりませぬ、酒を飲むものに限りませぬ年若き婦人にも來ます、源氏物語、末摘花の中に、

「うちつきて、あなかたはとみゆるものは、御はな

成けりふとめぞとまる、ふげんぼさちののりものとおぼゆ、あさましうたかうのびらかに、さきのかたすこしたりて、色づきたる事、ことのほかにうたてあり。」

とあります、これも酒皶鼻の一種であります、酒ばかりでなく、鼻の中に病氣があれば來ます、寒き風にあたれば腫れ、暖かくなれば小さくなる、これも鼻の中に影響があります、所謂肥厚性鼻炎は鼻の中にある下鼻甲介又は中鼻甲介の肥大せるものでありますが、これがあれば血液循環が惡くなり鼻のさきが赤くなります、又鼻がつまれば鼻をかみます、この刺戟によりても赤くなります、鼻の赤いのは只酒を飲む事よりは、鼻の中に病氣を持つであらうと云ふ事が想像されます、杉風の句に『雪に赤きもの道行く人の鼻の先』とあり寒天に出づれば鼻の中狹くなり寒い空氣を徐々に鼻で暖めて肺に送るのはこれまことに生理的に必要な事であります。

次に凹鼻に就て申します、小兒にて鼻の低いのは可愛らしいと云ふ人もあり、また西洋にて女の鼻の低いのを愛するのもありますが、人相學上では一の惡相であります、醫學上より見れば、鼻の低いのは通常鼻の中の諸鼻甲介萎縮して小さくなつて居ます、鼻が臭く瘡蓋のあるのがあり臭鼻と申します、かくして鼻低くなれば交際社會に出でられず氣塞がりで神經質となるのです。

鞍鼻　西洋でも日本でも嫌ひます、鼻のつぶれたのは鼻の中に障子のなくなつた人があります、例へば家の柱なくなれば屋根が落下すると同じ事です、其最たるを狆の鼻と云ふ、これは障子が皆とれて鼻の孔が向ふへむいて居ますから仰鼻（そぎはな）と云ひ、人相學でも惡き鼻の中に入れて居ます。

落窪物語

「四の君見るに顏の見ぐるしう鼻の穴よりは人通りぬべく吹きいらゝぎて臥したるに心づきなく愛敬なくなりてやをら物するやうにて起きて出たるを云々。」

鼻の障子がなくなる原因の主なるものは黴毒であります、然し黴毒のみに限りませぬ、若き娘にて障子の落ちたのがあります、鼻孔中に瘡蓋を生じ、をしつけられて鼻血が常に少しづゝ流出し、榮養がわるくなり、遂に障子が落るのであります、かゝる人を無實の罪に苦しむるのは實に氣の毒な次第であります、中には親よりの遺傳黴毒で障子がとれて低くなるのもあります、黴毒のため鼻のとれるのは其末期で進行中にはむしろ賑れて居り所謂高貴の相であります。川柳に

「すつぱりとなほりましたと鼻がおち」

と云ふのがありますが實に穿てりと云ふべしです。

要するに人相學で觀察したのは大抵多少の根據があります、然し、人相學でもすべてのものが當てはまるのではありませぬ、例外もあります、其最も著しきはソクラテスの鼻であります、この人の鼻は低くつぶれて所謂鞍鼻と云ふ方でありました、然し此人は有名なる哲學者で、不品行などあつた人ではありませぬ、西洋の人相學者もソクラテスは例外だと云つて居ます、また富貴の相なる高い鼻をもちながら、風雲に乘ずる期を得ずして、裏長家に長歎息して居る者も澤山あります、それであるから、鼻は高いと云つて安んじてはなりませぬ、低いと云つてあまり心配するにも及びません、唯醫學上根據ある鼻の變化をしらべて、鼻の中にある變化が外にあらはれたのを知り得るのは事實です、これ私の所謂實用鼻相學であります。

叢談

室内體操の效能に就て

小寺照二郎

見渡す所健全な人と云ふものは至て少ない、大部分

は薄弱である、病身である、或は身體が惡變して居る、即ち幾分變質の徴候を呈してゐる、これは一體どう云ふ譯かと云ふと、種々の理由がありませうが、運動の不足と云ふことも確かにその原因の一つになつて居ると思はれる。運動不足は全身を薄弱にするのみならず、病氣に罹り易く、又早く衰弱せしむるものである。凡そ吾々の周圍の自然界には到る處に生命と運動とがある、運動の無い處には生命は無い、生命を保つものは只生命中の運動のみである。然れば吾人の心臟は絶えず搏動して居る、これが爲に血液は不斷に脈々を循環し、これが爲に肺臟や胃腸は絶えず身體に新しい物質を輸入し、他の器官は又その用盡したものを外に排泄してゐるのであつて、これが若し一分間たりとも休止したならば、吾等の身體は忽ちにして瓦解して仕舞ふのである。斯の如く吾々の内部並に周圍に於ける不斷の運動と云ふことを觀るならば、人間は怠惰、懦弱に日を過すべきものではない、矢張絶えず孜々として勤め、活潑に立働かねばならぬものであると云ふことが分かる。

動物には名の如く、常に運動せんとする一種の慾望があり、これに由て又健康なることを得るのである。例へば馬を一日厩の中に押込めて置くと、馬は不穏になつて來て、跳上つたり、脚で牀の上を叩いたり、蹴たりして、その驅ける代りにするものである。又室の内に押込めて置いた、犬を散歩に連れて出ると、むやみに走廻る、今まで出來なかつた運動の埋合はせをしやうとするのである。此の如く何れの動物も相應の運動をしなければ身體が保てぬと云ふ本能を有てゐる。この本能は人間にもある、特に兒童に於て著るしい。健康な小兒は決して長い間靜に坐はつてはゐない、必ず手足を動かして惡戯をする、走廻る或は木登りをする。これは生物の有する正當の本能であるが、大人になるとこの本能も漸次壓迫されて、遂には筋肉の大部分は、全くその爲すべき運動を廢して仕舞ふやうになる、これは決して正當な

習慣と云ふことは出來ない。斯の如き不都合な習慣は、既に吾々の教育にも罪がある、漸く六七歲の小兒を捕へて、一時間も教場に押込めて靜にせよと强制するさへあるに、椅子に腰かけて、偏頗な姿勢を以て讀むだり書いたりさせる、それから家に歸つてからも復習とか下調べなどゝ云ふことを强制する、此間も動くべき筈の小兒が靜かに坐らなければならぬ。斯樣に手足の關節を折屈めて坐れば、自由に全身を循環する血液の流を妨げることは勿論である、即ち腰、膝、肘等の諸所の關節を屈曲して居れば、その部分を通つてゐる神經は壓迫され、血管は狹くなり或は一部分塞がれ、血液はその順當の流を妨げられて身體の內部に滯り、殊に腦髓、肺臟、腹部等に血液が鬱するやうになる、血液が腦に鬱積すると頭痛、眩暈、失神、近視などの原因となり、肺に鬱積すると肺の加答兒が起つて、肺癆の素地、或は肺癆となり、心臟の動悸などが起る、又腹部に鬱積すれば、便祕を來し、痔核の素地となり、肝臟が大きくなつたり、「ヒポコンドリー」、「ヒステリー」などゝ云ふ病氣の原となる。尙は字を書く場合に姿勢の惡い、爲に往々脊骨が曲る。

此等の事柄を防ぐのには、體操が最も良い方法であると云ふことは勿論で、學校に於ても規則としてこれを教課目中に入れて實行しては居るが、尙ほ十分とは云はれない、數日間、每日五六時間づゝも教場の內に居り、家でも危坐して、筋肉を使はずに坐つて居るものが、一週間に僅かに一二時間の體操で以て、その害毒を償ふことは困難である。これから育つ盛りの小兒の爲には、每授業時間の後に十五分間位づゝ休暇時間を置いて、教員は矢張生徒を庭に引率して、腕を伸し、腰を屈め、或は膝を屈める等、全身の筋肉を强くするやうな自由運動を行ふやうに指導することは衞生上極めて必要なことゝ思はれる、而して此際尙ほ呼吸體操を行ふことを勸める、即ち各運動の際に徐々に且つなるべく深く吸氣をし

て、同じく徐々に空氣を吐出すのである。學校に於て一時間も教場内に坐つて居つて、大抵淺い呼吸をして居るのであるから、肺臟は迚も十分には擴がらない、その働が制限される、從つて病氣に對する抵抗力が弱くなるわけである。故に總て肺病に對する最良の豫防法は、日中屢〻深呼吸を行ふことである。

右の方法に依て、小兒の神經並に筋肉を著しく強健にすることが出來やうと思ふ、從つて全身薄弱の結果兵役に堪へぬといふやうなものが少なくなる、又これに由て諸種の肺病、貧血、神經衰弱、「ヒステリー」などゝいふ種々の病氣を豫防することが出來る。且つ小兒等は此等の運動をした後には、新なる元氣を以て、筋肉も強くなり、肺も十分裕に呼吸するやうになつて教場に這入り、授業の終つた後には再び此等の愉快な、身體を強健にする練習をやらうと樂しみにするやうになる。

以上は單に兒童に就ての話であるが、大人に於ても職務上の關係から、健康の爲に是非必要な身體の運動を等閑に附するやうになることが尠なくない、例へば裁縫師とか彫刻家とか、毎日長時間坐はつて、屈むだ姿勢で仕事をしなければならぬ職業も澤山ある。而してその結果は、往々肺癆、便祕、痔核等となつて現はれる。經木細工、煙草女工、裁縫女工等の如き女子の職工も同一の運命を有つて居る。官吏、書記、その他一般の著述家等も決して健康な生活法をして居るとは云へぬ、此等の人々は折々散歩をする、健康上の本能を失つてはゐぬが、これだけで以て常に身體内部の鬱滯を防ぎ、その薄弱になれる器官を強健にするには不十分である。故に此等の人々も暫く坐業をした後には、各時間の後に少なくとも二三分間づゝなりとも運動をすることは非常に有益である。

運動は總て筋肉に依て起るのであるが、その運動を起す所の刺戟は何處から來るかと云ふと生命の中心たる腦髓から發するのであつて、恰も電池より電線

を傳ふて電氣が通ずるやうに、意志の衝動は腦髓から神經を傳ふて筋肉に達するのである。それで筋肉**が吾々の意志に由て屢々働かさるれば、先づ收縮し**て種々の運動をなし、これに依て强められ、漸次完全に發育し發達するわけである。然るにこれを働かすこと少なく或は全く働かさぬときには、その筋肉は弛緩し薄弱となり、腱はその緊張力を失ひ、神經も筋肉を完全に働かすことが出來ぬ、只不完全に弱く與奮するのみである、それで斯樣な人の姿勢及び歩行は不確實で蹣跚し、僅かの仕事にも忽ち疲勞を來すものである、これに反して筋肉を反復して働かす所の人に於ては、筋肉は勿論のこと、腱も骨も神經も完全の發育を遂げる。故に筋肉の運動を怠らぬ人は、その確實なる歩行、自由にして立派な姿勢、總ての運動の圓滑なること等、その外觀だけでも既に、筋肉薄弱者に優ること數等である。實際身體の均衡、力の充盈、諸般の運動を巧みにしなやかに行ひ得るには、何うしても運動器官をあらゆる方面に働かさなければならぬのである。然るに今日では柔道家の身體、又は昔の西洋人の像などに斯樣な姿**を見るに過ぎぬのは實に遺憾な次第である。**

筋肉の運動に際しては、常に又神經もその働に與かるものであるから、神經の强健に發達する爲には矢張筋肉の運動が必要である、これに由て反復努力するも容易に麻痺せぬ程度に神經が强くなるのである。

それで筋肉の薄弱な人々、特に上流社會の人々に於ては、少しく激しい仕事をすると忽ち疲勞して仕舞ふ、而して神經衰弱の徴候を現はす、上流の婦人に至ては、二十日鼠を見ても氣絶する、合奏の鐘鼓の音を聞いてもびつくりして飛上る、況や鐵砲の音などを聞けば膽がつぶれて仕舞ふ程過敏である、然るに斯樣な現象は、身體を鍛へて居る人々には全く思ひもつかぬ事柄である。

筋、腱、骨は單に運動を現はすのみならず、その組立てに依て全身の姿を成し、且つ體腔の發達に依て

貴重なる内部の臟器を保護するものである、故に此等の臟器が十分に發育する爲には、矢張筋や骨が完全に發育しなければならぬのである、若しこれが完全に發育しなければ、種々の不良な關係が生じて、姿も醜くなり、骨盤が狹いとか、胸が小さいとか、脊骨が曲るとかいふやうなことで、これから又樣々な不利益な事が起つて來るのである。吾々の心臟、肺臟、肝臟並に消化器等は、何れも骨、肉、腱等より成る所の外廓から、取圍まれて居るのであるから、その內に在る所の諸臟器が外廓に依て妨げられて、自由の發育に十分な場所を缺くに於ては、迚も完全な作用を營むことが出來ない、例へば胸廓が狹く壓潰されて居るやうでは、肺臟は普通に擴がることが出來ない、斯樣な場合には屢々慢性の加答兒が肺に起る、而して通常治癒し難いのである。肺結核病は結核菌に因て起るといふことは明かなことであるが、併し大抵は弱い狹い肺臟で、結核菌に對する抵抗力の少ない肺臟に起るのである。それであるから筋肉の强健な人が肺結核に侵されるといふことは頗る稀である。尙ほ喘息、肺擴張及び肺の慢性加答兒といふやうな症狀も筋肉の薄弱な、胸廓の狹い人に起り易い。

運動の不足は肺の病氣に罹り易い外に又腹の病氣を起す、而して多數の人は「ヒポコンドリー」などゝいふ病氣の下に、一生涯苦むことが甚だ多いのである、腹部の血管に血液が滯れば、直腸の血管が膨れて、或は痒く或は灼やうに痛み、不快の感じがあつて屢々出血する、而してなか／＼治癒しにくい所の痔核と云ふやうな病氣が起る原因となる。その外又往々胃や腸の加答兒を起し、便祕の傾向を生じ、肝臟の鬱血を來す。而してこの鬱血が腦の方まで續けば頭痛、眩暈等が起り、時としては血管が破れて卒中を來すやうなことがあるのである。

尙ほ運動不足の結果として往々病的の脂肪沈著が起る、これは單に皮下のみならず內臟にも脂肪が沈著する、その最も危險なるは心臟に脂肪がつくことで

斯様になれば心臓は著しくその働を妨げられ、屢々危険なる呼吸困難の發作が起るものである。

これを要するに、運動不足は決して身體を健全に保ち得る方法ではない、身體の不健全は又精神の不健全となる、これは離るべからざる密接の關係を有つて居ることは敢て説明するまでもないことで、少しく風を引いても精神の爽快を害される、假令病氣として現はれざるまでも、諸種の病氣の原因或は誘引となり、全身を衰弱せしめ、變質に陷らしむるに足る所の運動不足は、知らず識らずの間に身體並に精神を腐らすものである。生活と運動とは決して離るべからざるもので、生命ある所には必ず運動あり、運動の止める時は死せる時である。

日常盛に筋肉を使ふ所の職業に從事して居る人々の爲には、常に快く、益々有力に働くべき爲に却て休養の方法を構じ或は一部の筋肉の働の不平均を矯正する爲に特種の體操法を試みなければならぬが、無爲に暮して居る人は、必ず何ぞ有益な仕事を見付けて適當に身體を働かさなければならぬ、これは人の世にある義務たるのみならず、己の幸福を保ち、眞の快樂を得るに必要なる條件である。

特にこゝに運動を勸め度いのは、坐業をさつて居る勤勉な人々に對してゞある、又は主として精神的の職務に從事して居る人々に對してゞある。此等の人人は大抵自然に運動の必要を感じて、暇あれば或は散歩し或は園藝などを試むるが、これだけでは日々重なる所の運動不足の害を除くには不十分である、それで毎日特別に運動をする必要がある、併しその業務上の都合に依て、なか／＼特別に體操を行ふやうな餘裕がないと云ふ人も少なくない、けれど斯樣な人々にも尚ほ十分體操を補ひ得る方法が幾らもあるのである。今玆に一定の體操法の型を示す必要はない、如何なる方法でも宜しいから、只屢々身體の全部をなるべく均等に運動せしめる方法を講ずれば可い、例へば一時間机に向つて仕事をした後に、緣側に立つて脊伸をして、大欠伸をする時のやうに手

を擴げて二三回深呼吸をするだけでも非常に有益である。實際物に倦むで欠伸をする時の姿勢は確かに自然の要求に由る所の極めて適當な一種の體操であると思ふ、或は室を出る時に柱又は戸に手掌をあてて臂を伸ばし、足を後に伸して足尖で支へ、胸が柱につく位脊を伸す運動を數回やる。或は自分の室内に於ては獸が歩く時のやうに四つ匍になつて手足を十分に張つて腹が牀につく位脊を伸す、斯う云ふ運動を數回行ふ。右の如き簡單な運動は如何なる多忙な人でも行ひ得る時間がある、僅かに三分間もあれば澤山である、これを毎日屢々反復すれば宜しい、必ずしも右の二三の方法には限らぬ、その職務の都合により、又その機會に應じて、なるべく僅かの時間で全身の筋肉をなるべく均等に運動せしめ得る方法ならば何でもかまはぬのである。これに朝早く又は空氣の比較的新鮮な塵埃の少ない場所に出た時は、努めて胸廓を開いて深呼吸をするやうに心掛けるならば、それだけでも普通坐業の人に見る如き多數の身體上の缺點を除き幾多の疾病を豫防することが出來やうと思はれる。斯の如き簡單なる運動法さへも實行が出來ぬと云ふ人は、眞に運動の必要なることを知らぬ人で、如何とも致し難いが、左樣な人はせめては、毎日就牀前に全身の按摩を行ふことが必要である。然し從來全く運動を怠つてゐた人が多少運動の必要な理由を悟つて、何等か右の樣な方法を試みたならば、數日の後に至て、必ずその效果を知ることが出來るであらうと信ずる。

自分が病人であつたならば

井上小七

人は健全なる間は殆ど我身に氣はつかぬものである、些かたりとも病む所があれば始めて我身を顧みることゝなる、故に病人を看護するにも、自分がその身になつて見なければ、病人の欲する所が分からぬものである。今假りに自分が病人であつたならば

如何なることを希望し、如何に在れば滿足するか、その理想的の看護を考へて見るが宜しい、これ亦己の欲する所を人に及ぼすの一助となる。

俗に一に看病二に藥と云ふ通り、治療上に於て看護法は最も重きをなすものである、病に應じてそれぞれ醫術を盡すべきは勿論であるが、併し病は必ずしも治癒するもの丶みではない、如何に人力を盡すとも生命を奈何ともし難いことが頗る多い、斯樣な病氣にあつては特に看護の功德は偉大なるものである、而して大抵の重病者は、懇篤至らざるなき底の看護を受くれば、假令その病癒えずして死するとも滿足の意を表し、感恩の情に充ちて瞑目するものである。

若し自分が病人であつたならば、先づ可成日當りの良い南向の室に臥さしてもらひ度い前に庭のあるのは殊に望む所である。周圍はなるべく閑靜で、室內には一切不必要品を置かず、唯だ治療上缺くべからざる器械類、藥品等を整然一定の場所に備へ置き壁間には心を慰むべき額を掲げ、床には意を强むる幅を掛け、或は眼を悅ばしむる花卉盆栽を適緣に置き、又は氣を鎭むべき插花等をあしらひて、病間の慰藉とし度い。

清潔は本より全般に亙つての要求である、掃除は箒や拂塵を用ひず、總て雜巾を以て靜に拭取るやうにしてもらひ度い、氣の毒ではあるが尿器や便器は特に清潔にして欲しい。

臥牀は身體の痛くない程のものとし、敷布は皺や襞の寄らぬやうに、掛蒲團は可成輕いものにしてもらひ度い枕は餘り柔かならず、且つなるべく頭の暖まらぬものにし度い、臥牀の位置は壁や戶際をよけて室の中央にし度い。

苦惱疼痛等に對しては、醫師並びに看護してくれる人が宜しきやうに手當をしてくれることゝ信ずるから、一切その手に任せるが只起反つたり、寢反りをする時に注意して扶けてもらひたい、而してその都度蒲團に氣をつけ、殊に敷布の皺を展してもらひ

度い。

飲食物は醫師の指圖、又は獻立通りに守るが、可成嫌な物を強ひず、出來るだけ望むものを數へ上げさして、其中で取捨してもらひ度い、食慾の減じてゐる時は、食べても可いものゝ範圍で極々美味さうな物を教へて見てもらひ度い。食器並に料理獻立、總て小ざつぱりしてゐるやうに意を用ひてもらひ度い。その量、溫度及び度數等は勿論醫師の指圖通りにする。

顏や手を洗ひ、又口を嗽ぎ髮を梳上げることなどは非常に大儀であるが、快いことであるから、特に注意して世話をしてもらひ度い。

其他その折、その場合に依て希望することは數限りもないが、大凡の所だけに止め、尚ほ心理的の注意が何より望ましい、病人のことゝて精神狀態も決して普通でない、或は氣が鬱ぎ、或は焦立ち、或は何事も煩はしく五月蠅く感じ、隨分癎癪も起り易いから、餘程寛大に、特別の取扱を願はなければならぬ、見舞客も時に依ては却て喜しくない、迷惑に感ずることがある、取次ぎの人が氣をきかして意を計つてもらひ度い。僅かの事で甚しく睡眠を妨げられる、光線や溫度の具合、又物の臭氣、音響等も或は眠を妨げ、又は却て眠を促す仲立ちとなることがある、此邊も考へてもらひ度い、人の話或は書物を傍で讀むでもらつて非常に慰めとなることがある、或は話し掛けられるのが五月蠅くつて殆ど堪まらぬやうなこともある、特に自分の病氣が重い、或は生命にも係はると云ふ心配のある時に、陰でこそこそ話されるのは非常に厭なものである。嘔氣のある時に食物の話などをされると、益す堪へ難いものである。急變ある時には直ちに十分なる醫師の手當を受け得ると云ふことを信じ得れば、患者は何よりも心丈夫に安心して居るものである。看護さへ十分に行屆けば、人は死すとも略ぼ滿足して瞑目し得るものである。

卒中の用心

醫學上で種々の體質を區別する、神經質だとか、腺病質だとか、種々の體質と云ふものを區別するが、その中でも名高いのは卒中質である、卒中は御承知の通り、俗に「死なば卒中」と云ふ程、コロリと死ぬ病氣で、只今まで非常に强壯と云はれた人が、卒然死亡する、これは腦の血管が破れて人事不省に陷り、次で呼吸も、心臓の働も總て止む卽ち死亡するので、腦溢血と稱する所のものである。この腦溢血を起し易い體質の人がある、それは何う云ふ體質の人かと云ふと、大抵赤ら顔で、頸が太く短く、胸や腹も大きく、その割合に丈の低い人である、卽ち極く强健で金時のやうな格好をしてゐる質の人である、斯う云ふ風な人が五十前後になれば、餘程氣をつけぬと何時何處でコロリと行くか分からぬ、生命保險會社あたりでは、斯う云ふ體質の申込人を最も恐れて居る、結核と云ふものは非常に多いが、これは主に若い者を冒すのであつて、老人になれば少なくなる、且つ最初から診斷がつく、然るに腦溢血の方はこれと反對で年を取るに從つて多くなる、四十五六歳から後の病氣では癌腫のやうなものも多くなるが、この腦溢血、卽ち卒中が一番恐ろしい、日本でも西洋でも非常に多い。

この卒中と云ふものは血筋を引く、卽ちその體質は遺傳して、親も卒中、子も卒中と云ふのが頗る多い、これも能く人の知つてゐる所である。

前にも述べた通り、腦溢血は腦の血管が破れて、血液が腦に浸出て頭が暗くなるので、その血管の破れ易いと云ふことが原因になるのであるが、この血管が破れ易くなると云ふのに又原因がある、これを知れば從て、卒中の豫防心得になる譯である。

卒中の原因は第一に血管の破れ易いと云ふことで、これは一は體質に依るが、先づ年を取れば凡て身體が硬ばつて脆くなる、血管とても脆くなる、併しこれは如何ともし難いことである、只用心し得ること

は、特別に血管を硬くし或は脆くせざる工夫である。この血管が硬くなる、卽ち醫學上で云ふ所の動脈硬變を起す原因はと尋ねて見ると、年を取つて自然に硬くなる外に、最も著しい關係を有つてゐるのは慢性酒精中毒で、酒客に卒中が多いと云ふのはこの理由に本づくのである。その次には黴毒、それから腎臟炎と云ふやうなものである。

斯樣なことに由て血管が脆くなつてゐる所に、急に或は強く血液が腦の血管に入込めば、玆に腦の血管が破れて腦溢血を來す、卽ち卒中が起るのである。

そこで卒中の用心としては、以上の原因及び誘因を除く、或は出來得るだけこれを避くるやうにするのである。それには何うするか、箇條書にして見れば略ぼ次の如くであらうと思ふ。

一、適當に體操、按摩等を行つて、出來得るだけ身體を若く保つこと

二、酒を飮まぬこと

三、黴毒に罹る如き不行跡をせざること、若し罹れるときは嚴重に治療を加へて根治せしむること

四、腎臟炎に罹らぬやう、若し罹れるときは十分に治療して速に恢復を計ること、但しこれは困難である

次に避くべきこと或は愼むべき事柄を擧ぐれば、

五　凡て逆上することを避く

ア、精神過勞、激情、興奮

イ、暴飮暴食、特に酒

ウ、熱浴、長湯

エ、便祕

オ、烈しき力業

平素守るべき衞生法としては

六、淡泊なる食物を選ぶこと

七、便通をよくすること

八、マッサージを行ふこと

九、新鮮なる空氣中に散歩すること

十、牛乳果物を常用して宜し

發疹窒扶斯

根津尚菅

先月末頃より東京に一種の熱病が發生致しまして、ぼつ〳〵流行する模様があると云ふことを聞きましたが、段々調べて見ると、何うも發疹窒扶斯らしいと云ふことで、心配をして居る矢先に、漸次傳染するものが出來て、駒込病院にも入院するものが多くなり、看護婦も同病に罹れば、醫員までも感染して死亡し、醫官もこれに感染して死亡したと云ふやうなわけで、頗る物騒なことで御座います。殊に大正博覽會、又花時のことゝて、地方から出京致して居る人々も多い折柄、甚だ憂慮すべきことである。

凡て傳染病、特に惡性の傳染病に就て餘り詳細の症狀を述べますと、醫學の心得のない方々には往々無益の心配を增し、徒らに恐怖を懷かるゝ場合が多いので、却つて身心に惡影響を及ぼし、罹患し易くなると云ふやうな虞もありますから、なるべく醫學上の嚇文句のやうなことは避け度いと思ひますが、然りとて恐るべきものは實際何の位怖ろしいものであるかと云ふことを承知して居なければ、豫防が忽諸になる傾がありますから、發疹窒扶斯に就て極大體の所をお話して、豫防心得の一端と致したいと思ひます。

發疹窒扶斯と云ふものは從來我邦には無い、或は甚稀であると云はれたものでありますが、外國では屢々大流行があつたのであります。それで西洋では種々の名稱がある、發疹窒扶斯、發疹熱、傳染性窒扶斯、血斑熱、黑死熱、戰爭窒扶斯、饑饉窒扶斯或は匈牙利熱などと云ふたのは何れも發疹窒扶斯の別名であります。

西洋の流行病史を見ますと、この發疹窒扶斯は古代からあつたものらしいが、ペストと混同されて居つたやうであります。千五百五年及び千五百二十八年に伊太利全土を荒した所の「ペスト」、又千五百六十六年に匈牙利、千五百七十四年にマイセンに流行した

所の「ペスト」と云ふのも、今日で申すと矢張この發疹窒扶斯らしいと云ふことであります。それから千七百五十七年及び千七百五十九年に墺太利、殊に維也納に流行した所の腐敗熱、千七百七十一年及び千七百七十二年に殆ど獨逸全國に猖獗を極めた所の惡熱性腐敗熱と云ふのも同じく發疹窒扶斯であつたと云ふことであります。この腐敗熱が特にその熱猖獗を極めたのは彼の三十年戰爭及ナポレオン戰爭の時の大流行でありまして、この時に歐羅巴全體に亙つて非常に激しい流行であつた。千七百九十三年及び四年、千七百九十六年及び七年に獨逸國で流行し、千八百五年には墺太利及び匈牙利に流行し、英吉利及び伊太利では千八百十六、七、八年に最も猛烈を極め、伊太利では全人口の八分の一を奪はれた、即ち四萬人からの死亡者を出したと云ふことであります。その後千八百二十六年及び二十八年にもあり殊に千八百四十六年、七年、八年には非常に激烈で、英國では十萬人、伊太利では三十萬人も罹患があつた、千八百四十七、八年には獨逸にも再び流行致しました、更に下つて千八百七十八年の露土戰爭の時などには、戰死者も澤山ありましたが、それよりも傳染病に罹つて死んだものゝ方が遙に多い、尤も發疹窒扶斯のみではなかつたのですが、戰死者は三萬四千七百四十二人あつたのに、傳染病者の方は十九萬九千五百三十七人あつて、其内四萬三千九百八十五人は死亡したのであります。今日でも露西亞と獨逸の境界地方には時々發疹窒扶斯が發生して少なからざる人命を奪ふて居る。歐羅巴でも佛蘭西、西班牙、葡萄牙、白耳義、和蘭、それからスカンヂナビヤなどには發疹窒扶斯は無いやうであります。支那波斯等には地方に依て間々流行する、印度、亞米利加等には比較的稀なやうであります。

以上は發疹窒扶斯の歷史でありますが、次にこの病氣そのものに就てお話を致します。

發疹窒扶斯と申しますから、普通の人は矢張腸窒扶斯或はパラ窒扶斯の少しく變つたものであらうと云

ふ位に考へられませうが、その實は發疹窒扶斯と腸窒扶斯とは關係はない、全く異つたものでありまして、唯どちらも重い熱性の傳染病であると云ふ點だけが同じであるに過ぎないのであります。

腸窒扶斯及び「パラ」窒扶斯は、どちらも一定の病原菌が明かに分かつて居りまして、その傳染經路、人體に何うして侵入するかと云ふことも明かでありますから、今日では普通の窒扶斯は、大して恐るゝに足らぬ、少しく注意すれば確かに豫防することが出來るのであります、然るにこの發疹窒扶斯に至りましては、今日も尙ほその病原物が分からない、又如何にして傳染が行はれるか分からない、患者の呼氣で移るものか或は皮膚から剝脫する所の鱗屑で移るものか何うも確められないのであります。如何なる經路に依て來るか確かでないが、兎に角患者の物品、卽ち患者の襯衣、衣服などから病毒が傳播されると云ふことだけは事實なやうであります。而して腸窒扶斯などに較べますと、人から人に傳染することが容易である。斯樣に發疹窒扶斯は惡性の熱性傳染病で非常に感染し易く、而かもその原因が何ものであるか、又何う云ふ筋路を通つて罹るのかも分からないのでありますから誠に始末が惡るい、今日では虎列剌でも腸窒扶斯でも、少しく注意すれば確かに豫防することが出來ますから、毎日これ等の傳染病患者を取扱つて居る醫師や看護婦も容易に感染するやうなことはないのでありますが、此度の發疹窒扶斯が始まつて未だ間もないのに旣に醫師、看護婦、警官などがこれに感染し、而かも氣の毒にもその職に斃れた人を二三人も出して居るのを見ましても、その感染し易いこと、又性質の良くない病氣であることが分かります。尙ほこの病氣は、西洋に於ける流行の經驗から見ますると、これまで此の病氣の無かつた土地に初めて流行致しますときには何時でも激烈である、これが一つ憂慮すべきことであると思ふのであります。

次にこの病氣に罹かれば如何なる症狀が起るかと

申しますと、これは普通の人には餘り必要のことでもなく、徒らに不快の感じを與へるばかりでありますから、極大體の所をお話致して見ますと、病毒に觸れてから、病氣が發するまでの間、即ち潜伏期は何日位かと云ひますと、先づ四日から十四日、多くは八日乃至十二日、稀には一日で發病すると申します、通常九日以上油斷がならぬと云ふことになつて居ります。それから年齡から申しますと二十歳から四十歳の間の人が罹ることが多い、殊に榮養不良の人、又一般に外部の生活狀態の良くないもの、極下等の生活をしてゐるものに多い、西洋で飢饉窒扶斯、戰爭窒扶斯などと云ふた惡疫は、何うもこの發疹窒扶斯であつたらうと思はれるのであります、不良の生活狀態、榮養不良と云ふことは確かに本病の發生に密接の關係を有つて居るのであります。

潜伏期が過ぎて、いよ〳〵發病することになりますと、先づ寒けがして慄が來る、即ち惡寒戰慄を以て始まる、而して非常に身體が倦怠く、胸が惡く或は吐く、又腹が強く壓されるやうな風で、腰が痛む、斯樣な風で、直ちに第一日目から熱が三十九度から四十度、或はそれ以上にも昇りまして、三日乃至七日の後に至つて、名の如く皮膚に發疹が現はれる、これは最初は小さな赤いポツ〳〵、所謂薔薇疹でありますが。後になりますと皮下に小さな出血が起るそれで又血斑性窒扶斯などと云ふ名稱もあるのであります。

それから熱が高くなりますと、神經症狀が烈しくなりまして譫語を言ひ、頭痛、眩暈、耳鳴等が起り、脾臟が腫れ、その他器官の病氣も起り、又往々脾臟、肺臟、唾液腺、耳等の化膿が起ることがあります。通常十七、八日位で、これまで非常に高かつた熱が急に去つて仕舞ふものであります。

治療法としては特別の療法もありません、先づ普通の窒扶斯の如き熱病に對する療治をするのであります。

最後に最も大切なるは、豫防法でありますが、これ

も前に申します通り、何分病原物が分かつて居らず傳染の經路、方法も明かでないのでありますから、**他の傳染病の如く確かな豫防法を定めることは困難**であります、併し我邦の傳染病豫防法では、發疹窒扶斯も八種傳染病の中に這入つて居りまして公衆衛生の方では拔目なく規則だけの豫防法が施行されて居りますから、それで宜敷いわけでありますが、各個人に於ても出來得るだけの用心をしなければなりませぬ。原因が能く分からぬと申しましても、兎に角、人から人に感染する、その病毒は病人の衣類から傳染し得ることは事實である。又榮養不良の人、不潔な生活をする人に多いと云ふことも明らかでありますから、先づ吾々は病人に近づかず、流行地を避けると云ふことは最も安全な道であります。これが困難な事情があれば、兎に角身體を弱らさぬやうに、尚ほ一層榮養を良くし、身體並に周圍を清潔に保つやうに努め、患者の頻發する區域に行かぬやうに、外出先から歸つたときは、少なくとも顏や手は石鹸で洗ふやうにし度いものであります。而して若し熱が出たとか、氣分が惡いとか云ふ場合には、**直ちに醫師の診察を受けると云ふやうに致し度いもの**であります。

育兒

小學校の結核豫防に就て

醫學士　石原喜久太郎

これは石原學士が、西洋にて親しく觀察調査されたる所に基づき、我邦の學校衛生に希望すべき事柄を述べられたるものにて、頗る重要のことと思はるゝを以て、元來國家醫學會に於てせられたる講演なれども、同會並に演者に乞ふて此處に轉載することとせり。（編者）

今日は小學校に於ける結核の豫防に付きまして一場の御話を申上げて諸君の清聽を涜がし、又それに付

いて御盡力を願ひたいのであります。前以て御斷りを申して置きたいのは此演題に掲げました事項は卽ち學校衞生の問題でありまして、其學校衞生といたしましては、嚢きに官命によりて留學いたすことになりまして、專門の敎室で私の專門の事をやります外に獨逸、墺太利、瑞西といふやうに主もに獨逸人種の國を廻はりまして聊か學校衞生のことを調べましたのであります。

私の日本を出發いたしましたのは丁度明治四十四年でございましたが、其前一年餘り文部省の囑託を受けまして、さうして日本の學校衞生の一端を窺ひ知ることが出來ました、恰も其頃の內閣統計局に於きまして初めて二箇年に亙りて職業別による日本人の死亡原因統計が發表になりました、卽ち其發表になつた時は四十二年及三年であつて、發表になつた實質は明治四十年度分及翌四十一年度分の二箇年度であります。

それで其統計を見まするといふと學校衞生上重大な事實を含んで居る、今まで實際に於て僅かに人の知らなかつた所の新事實が現はれて居る、卽ち日本の小學校の敎員には肺結核の死亡が少なからぬといふ事實であります。此事は敎育又學校衞生上重大な事柄でありまするからして、先輩の氣付きもございますし、それで此唯一の統計局の統計を材料としまして多少それを編纂してさうして當局者に上申もし、意見も開陳いたしました、所が當時さういふ事實が初めて現はれたので、當局者も非常な注意と熱心とを以て其事を聞かれまして色々と計畫を始められたのであります。私の調べましたものは其當時學校衞生の關係當局者に配布を致し、又一二の公けの會に於ても意見を述べたのであります。けれども其當時考へますには、此統計といふものは單にまだ二年間の經驗に過ぎないからして十分に確實といふことは出來まい、少なくとも數年の統計の成績を見なければ豫防の方法を講ずるに付きましても十分の計畫を爲すには材料が足らぬのであらうといふことを

考へまして、それに必要なる計畫をいたして居る中に急に日本を出發しなければならぬことになりまして、今日まで約三年間、不在中のことは歸つてからまだ日も經ちませぬからどういふ風になつて居るか、多少は耳に這入つたこともございますけれども、自分にはまだ判明して居りませぬ、併ながら日本の新聞紙をアチラに於て讀みます間に、氣の付きましたことは世間一般に結核豫防の事業が大分進んで來さうである。又それに付いて色々御盡力になる御方もあり、又學校衛生として文部省に於てはそれぞれ計畫施設をして居られるやうな模樣も見て居つたのでございます。私の先年日本を立ちます際にも統計局の二階堂技師は本會に於て同君の御調べになつた敎員結核統計に付いて演説をされまして、私も其時出席して拜聽したことがあつたのであります。それで今回歸朝致してから雜誌を見ましても、例へば本會の雜誌には古瀬醫學士は敎員の肺結核に關係を有つて調べられたたらうと思ひますが、さういふ調査も載つて居りますし、又學校衛生の爲に盡力をしやうといふことから學校衛生といふやうな雜誌が出來てゐました、當局の方の施設も有るやうに聞いて居りますからして、敎員結核問題といふことは追追實地豫防の施設實行時代に移り行きつゝあるといふことを信じて居るのであります。私は當面の問題である所の日本の小學校敎員肺結核豫防に付いては今日具體的には申上げませぬそれは後日に讓ります。

私が大勢の諸君の清聽を煩はしたいといふのは、それよりは結核豫防に對して今少し根本關係のあることを御話申上げたいと思ふのであります、勿論珍らしいことも新らしい事もございませぬ、誰も御氣付であり御承知のことゝ信じまするが、結核豫防上には是非必要のことであらうと思ひますからそれに就いて二三の例を擧げて斯ういふことを追々始めて見たいといふことを御話するのであります、それに先ちまして一寸此處で簡單に一二敎員結核豫防の方法

の事に付いて申します。
私は獨逸國、墺太利、瑞西を歩るいて學校衞生の事を調べて居りまする時に教員、殊に小學校教員の結核の事を何つでも質問を致しました、それで當局者――學校醫の制度が所によりて多少違ひますが――其種々の學校衞生の當局者或は小學校の學校長或は學校醫長、學校醫といふやうな人に、いつでも質問をし居りましたが、どうも不思議に先方でも教員、殊に小學校の教員には肺結核が少ない、それで是は日本のやうに若し職業病ならば、元來歐羅巴にも結核が澤山あつて結核豫防運動が盛んに起つて居るのであるが、教員にも無くてはならぬ筈であるが、實際非常に少ない、それで相手の方が申すのに自分は十年間十五年間小學校に奉職して居るけれども曾て同僚の肺結核に罹つた人に遭遇したことがないとか、或は單に一人肺結核に罹つた人に出會つたことがあるといふやうな、どこに行つてもさういふやうな答辯で誠に不思議に思つたのであります。

丁度私が向ふに居りました間に、此問題に付いて特に熱心に調べて居つた人が一人ありました、現今の獨逸人の教員結核問題を調べまするに參考になる人でありますからして名前を申しますが、ドクトルアルトシールといふ人で、墺太利の「オバーサニテーツラート」でベーメンのプラーグ市に居る人であります。此人は教員結核、小學校教員の結核の調査をして度々演説もされ、報告もして居ります。丁度昨年の十月下旬に伯林に第十一回萬國結核會議が開かれましたので私も出席を致しましたが、此人は其節も矢張り學校教員結核問題に付いて演説されてさうして聽衆の大なる注意を惹きました。其時此人の述べました趣旨を簡單に述べますると、教員の肺結核は單り學校兒童に對して傳染の危險の甚だしきのみならず、此病氣に罹つて居るものは第一に精神竝に身體が弱つて居る、詰まり斯ういふ人の授業力、兒童に適當に課業を教へて行く所の勢力といふものが非常に減つて居る、之が即ち教育上甚だ恐るべ

きことである、併ながら學校の教員たる人が元來多く肺結核に罹るものであるか或はさう多く罹らないものであるかといふことは各地の成績を調べて見ても一致しない點がある、詰まり言ひ換へれば比較的多い土地もある、又少ない土地もある、それで自分は一つの發議を此會にしたい、といふのは、教員肺結核問題は學校衛生上重大なものであるからして萬國々際的の教員の疾病統計といふものを採りたい、殊に其疾病統計に付いては肺結核といふものを主もに顧慮して、其事を目的として統計を採りたいといふことを述べられたのであります。所がそれに對ししまして伯林の教員組合の學校衛生會の會頭をして居るフリードリッヒ、ローレンツといふ人が立つて獨逸教員死亡互助會の是迄の經驗がある、其材料に付いて自分が取調べた所の成績に依るといふと、教員の結核死亡は其他の職業の者と比較して特に多くはないのであるといふことを述べられました。

此ローレンツといふ人は昨年斯ういふ一つの教員結核に關する小冊子を發行しました、伯林の獨逸人の獨逸教員の死亡互助會の經驗に依る教員の結核死亡といふのであります。それで是は極く新らしいものでございますが、之を御覧になりまするど、獨逸現在の教員、肺結核の事が極めて能く簡單に分かるやうになつて居ります。それで何かの方法で此論文を飜譯して御目に掛けたいものと思つて居ります、之には色々の必要の表もあり有益なものと思ひます。此人が今申しましたやうに伯林教員の學校衛生の會長をして居るのであつて、此事に熱心な人で、まだ此の他に種々の調を幾つもやつて居る人であります。

此人が調べました結論を茲に申上げまするど、第一に教員の結核死亡といふものは他の職業者に比較して、別に多いものではない、此結核死亡の中には肺結核も含んで居ります、それで此調べに依りまするといふと一一・三九%である。それから第二に此教員社會、教員といふ一つの階級の結核死亡といふもの

は、他の一般の人民、卽チ獨逸人の結核死亡一般が最近十年間に漸次減少をして居る、それと同樣に敎員の結核性の死亡といふものも漸次に減少して來た。第●三●に敎員の結核死亡數に付いては田舍の敎員と、それから都會の敎員とに依つて大なる差違はない、都鄙共に其數を一樣にして居る。第●四●に敎員結核死亡の最も多い時期といふのは敎員が敎職に付いて其在職中の最初の時期であるやうである、是は確かに言つてありませぬけれども、さういふ風に見える、卽ち年齢をいふと二十歲からして三十歲の間の死亡が最も多い、それから第●五●には此敎員結核といふものは決して敎員に特有である所の特異的の職業病と斷定すべきものではなくして、是も一つの社會的要約に因する所の疾病である、職業其ものが原因ではない、彼が生活上の社會的要約に原因して居るものであると、斯ういふ結論をして居ります。それで詳しい數の上の事に付いては申上げませぬけれども、此獨逸敎員互助會の經驗に依りますといふと、一般の結核死亡といふものは存外に少ないのであります。

日本に於きましてはそれに反して、敎員結核の死亡結核性の疾患に罹つて死ぬる數といふものは、例へば明治四十年からして四十三年に至る四箇年間の統計に依りまするといふと

敎員死亡原因中結核死亡

肺結核	三〇五乃至三四四‰
腦膜炎結核	一一乃至一六‰
腸結核	二二乃至三二‰
其他の臟器の結核	二六乃至二五‰

斯ういふ風になつて居ります、非常に多いのであります。此人の調べました統計の外に又獨逸の他の地方で調べました統計がありますが、何れに致しても日本ほど敎員の結核死亡の多い所はないやうになつて居ります、つまり内閣統計局の統計に依りまするゝと、日本の統計は餘ほど數が多く現はれて居るのでありま

す、此の彼我對照いたしまして著しい相違といふものは職業病であるとかないとかいふ點にあります。それで吾々の方に於ては教員の肺結核といふものは事實でありますからして、目前其豫防をしなければならぬのであります。此要望を充たしますに就いては、今目前に是非やらなければならぬ方法もある、即ち抛つて置けないものもあります、それから又將來を圖つて將來の豫防法の爲にやつて行かなければならぬものもございます。目前やつて往かなければならぬ方法といふのは、此學校に於て肺結核の教員の病毒といふものが他に傳播蔓延しない方法を採らなければならぬ、又同時に此結核教員自身の治療法も構じなければならぬのであります、即ち教員自身の病氣を癒さなければならぬのであります。此事は事實肺結核がある以上は一日も忽かせにすることの出來ないことゝ思ひます、それに就いて又色々の必要の考へ付や方法もございますが、それは茲では述べる趣意でありませぬ。

一方將來の爲に色々調査もなければならぬのでありま す、其調査に依つて豫防上種々計畫をして行く事柄の根據を得ることが出來ると思ひます、例へば本邦教員の肺結核といふものは果して職業病で有るか無いか、是は一つの例に過ぎませぬけれども、まださういふ問題も色々あらうと思ひます、斯ういふことも亦私は茲に述べませぬ。

私は茲に諸君に特に御盡力を仰がなければならぬと思ふことは、右述べました中の將來の爲に圖つて往くべきことであると考へます。此將來と申しましても、目前やつて行かなければならぬ事柄と同時に將來の爲に出來るだけ一緒に早くやつて往きたいといふ事柄を申すのであります。

現在の國民は將來の日本の爲に精神身體の健康なる第二の國民を作りまして、さうして日本の國家、日本の民族の繁榮を圖らなければならぬ責任がある。第二の國民の教育すべきことに對しては小學校の教員が最も大切であるといふことは明かであつて、從

つて小學校の教員の活動を待たなければならぬから、其活動の基礎となる所の教員の健康を圖つて往かなければなりませぬのであります。日本では學齡兒童の九八・二％といふものは皆學校に這入るのであります、卽ち言ひ換へれば現在凡そ七百萬の兒童其ものが小學校に這入つて居るのであります、又それが絕えず續くのであります。此小學校の時代に學校衛生といふものが十分に活動することが出來るならば、吾々の要求する所の第二國民の健康上非常に有利なものであります。此事に就いてはどなたも御異議のあらう筈はないと信じます。それで此國民の健康に就きましては此時代が最も大切な中々大事な時代であります、それで現今當面の問題である所の教員の結核豫防を言ひ換へれば、もつと大きく言へば、全國民の結核豫防といふものはつまり此小學時代に圖らなければならぬのであります。

學校には學校醫といふ衛生機關がある、此衛生機關を十分に活動することが出來ますれば此目的は十分に達することが出來ます、否出來る所ではない、是非出來なければならぬのであります。それではどういふ風に此豫防を小學校から始めて行くかといふことは一口に申しますれば、能く諸君の御承知のことであつて容易の仕事でありますけれども、併し之を行つて行くといふことは又困難なることもあると思ひますが、それは固より覺悟の前に覺悟をして行かなければならぬのであります、どうしても此小學時代の根本に遡つて仕事を始めなければ此結核豫防といふものは出來ない事實があります。それに就いて一二の例を申上げやうと思ひます、其方法は一一舉げまするといふと長くなりますから手近かな例を一二申述べませう。

此義務教育に依つて兒童が學校に這入つて參りましたときに身體檢査を致しまして、結核に罹つて居るもの、それから又結核の素質のあるもの、腺病質のもの、及其他の一定の疾患を有つて居るものを併せて診定をしなければならぬ、其重くして就學不能の

者は勿論就學延期をいたしまして、さうしてそれを除いた外のものは謂はゆる豫防の爲に林間學校といふものを設けて、是非そこに送らなければならぬのであります。此林間學校に於きまして、結核に罹からうといふものを罹らないやうにするのでありまして、其趣意といふものは、手近かに申しますれば雨の降らない中に牖を閉ざすと少しも變はつたことはありませぬ。此林間學校の設立といふことは困難なことゝ思ひますが、それは私は別にエライ悲觀は致しませぬ、早晩さういふ風にならなければならぬことゝ信ずる理由があるのであります。それで結核豫防の根本義は單に結核に罹つたものを隔離をしてさうして其排出する所の病毒を消毒するのみならず、斯ういふ風に、遡つて第一著に結核に罹らない方法をしなければいつまで經つても病氣は絶えないのであります。此林間學校といふものは教育社會には既に古くから——さう古るくもありませぬが、約十年ばかり創立以來經つて居りますから、教育社會には能く知れ渡つたことであると信じます。其一番初に出來ましたのは伯林の市に續いて居るシャルロッテンブルク市で初めて設けまして、今日までの經驗上大變に結核豫防の成績が良いのであります。(此市は仲々學校衞生に力を入れて居ります、學校齒科なるものは其創設はストラスブルグ市でありますが、此シャロッテンブルグ市は之に倣ふて速に學校齒科を置きました)。現在夏期は二百三十名の前申しました條件を備へて居る兒童を普通のシャルロッテンブルクの公立の學校から分離して收容して居ります。又冬期は九十名の兒童を收容して居りまして詰まり貧血性のもの、腺病質のもの、それから神經性のもの、心臟及肺臟疾患のものといふやうなものを普通の學校から此處に送つて居るのであります。それで此學校に於きましては教育を施すと同時に健康の恢復方法を講じて居りまして、一定の授業時間の外には體操、遊戯は固より、日光浴或は水浴園藝的の耕作、運動、強肺體操といふやうな方法を

行ひます。丁度肺結核の治療所を廻つて見た方は思起すでありましようが、あゝ云ふやうなことを此學校に應用して居るのであります、例へば毎食後に於きましては、夏の涼しい時期には學校で毛布を一枚與へまして、さうして空氣の好い樹の下に一緒に睡眠させる。又冬期に於きましては謂はゆる「リーグハレ」で天井と後ろに壁の有る建物の中で「ケット」を三枚づゝ貰つて晴雨に拘はらず食後に睡眠をする、此シャルロッテンブルクで初めて林間學校といふものを設けまして、時の經過すると共に其成績が宜いからして獨逸國でも漸次に此林間學校を設けまして、唯今では獨逸國に總計十七箇所あつて、又他の國の墺太利、或は瑞西にも此林間學校を輸入して居るのであります。

それから又日本に於きましては、先年九段に精華學校の兒童に行ひまして、故小原君から報告されたことがあります、謂はゆる「フェリエン、コロニー」であります。「フェリエン、コロニー」も同じ目的を以て又獨逸國民の間には盛んに行はれて居ります、其目的は林間學校に入れたも同じことであります、伯林だけでも「フェリエン、コロニー」の組合がありまして、既に今から三十年も前から行はれて居るのであります。即ち千八百八十年位から行はれて居りまして、私が集めました材料の千九百十二年末までの報告に依つて調べて見ますると、例へば千九百十年には伯林の協會で其年だけで五千百五十三名の兒童を百十八組の「コロニー」に分けまして、さうして體質に相應して種々の場所に送つて居るのであります。それで此豫防の成績といふものは又非常に著しいのであります、それでどうか本邦に於ても之を盛んに行ふやうな手段を構じたいのでありまして、一定の體質のものを特に集めて普通のものを交ぜずにやりたいといふのであります。それから又一時人が衛生を誤解しました時代がありますが、即ち「アプヘルツング」といふものを忘れて居つた時代があります、衛生といふことは決して弱わさうなものだけを

保護するものでは決してない、弱い者を強くし、強い者を尚ほ強くして弱くならない工風をしなければならぬですからして、此方針を一層又學校に於ても特に注意してやつて行きたいものです、例へば兒童は寒暑共に自然に對して抵抗力を發揮することの出來るやうに成るべく新鮮なる空氣中に運動を奬勵をして寒冒に罹らない方法を講ずるといふ、さういふ方法も色々にあるのでありますが、主義としては此「アプヘルツング」といふものに非常に力を入れたいと存じます、又もう一つ林間學校に送くる必要のない兒童でも、例へば胸廓のよくないもので後日肺の疾患にでも罹かり易いと思ふやうな胸廓を有つて居る兒童、さういふものは普通の授業時間の讀み方とか或は書き方とか或は作文とか、其普通の授業時間に於ても方々から特に姿勢の注意を與へる、教員の方でもさういふ兒童には六年間絶へず注意を拂つて行く、又體操時間には特に體操教師がさういふ種類の運動に始終注意をして行くといふことは非常に必要であらうと思ひます。尚ほ又私は向ふに居る時一般の肺部を強壯にする體育を盛んに講じたいといふことから、さういふ所も見ましたのでありますが、非常に盛んなものであつて如何にも肺部を強壯にすることの出來るやうに見ゆる、處々に強肺體操がある、それでさういふ風に一定の強肺體操を十分に效能のある強肺體操を編纂しまして、さうして體操時間の一部分を特に斯ういふ者に分けるといふやうな方針を探つて見たいのであります。

まだ方法は色々ありますが、要するに何でもよいからして此根本的に結核の豫防をやつて行きたい、さうしなければいつまで經つても此疾病といふものは歇まないのであります。根本的にやるには小學校の時代は最も大切であるから、必要なる豫防法を行ふと同時に此方面に廣く力を入れて見たいといふのでございます。斯ういふ兒童はやがて學校を出ますれば或は教員養成所に這入る、或は實業學校なり或は又中等學校なり、進んでは大學なりの教育を受けて

第二の國民になるので、斯ういふ時代に斯ういふことをやつて幾らか後日の基礎といふものを作らなければなりませぬ、此時代の健康狀態といふものは最も必要であります、殊に教員養成所に這入るといふやうな者も多數あるのでありますが、之を行ひましたならば自然に又教員結核の減少といふことも見られるし、又國民一般の結核といふもの丶減少も見られなければならぬこと丶思ひます。

學校醫は總て健康な第二の國民を作る責任を有つて居りますからして、學校醫をして十分の責任を果させるには更にそれに對する色々の施設をしなければならぬこと丶思ひます、殊に日本に於て必要なことは學校と家庭、學校醫の間に連絡といふものを今後一層有效にしなければならぬのであります、一例を擧げて見ますると、日本に於きましては小學校なり或は中學校なりを卒業するものがありましても、お前は是から先きの修業はむづかしいだらう、お前の健康狀態では今後斯ういふことをやつて往くことが不適當である、さういふことをやれば必ず其職業が健康を害してお前が目的を達することが出來ないのである、であるからして今度職業を擇ぶならば斯ういふ方面の職業に從事してよからうといふ、職業の撰擇を校醫者即ち學校から敎へてやるやうに致し度い、是は學校衛生上必要なことでありまして、一つは當人の爲に、一つは將來の社會の爲に學校醫といふものは此等の點に就て大に考へなければならぬことであらうと思ひます。家庭と學校との衛生上の連絡を計りまして、各個の兒童の健康狀態を良くするやうに致すのが必要であります。兒童が傳染病に罹りし場合には校內傳染豫防の爲め並に家庭內傳染豫防の爲め學校が其面倒を見る必要が屢々あります。獨り傳染病に限らず校醫が其他の疾病を發見した場合には懇々其治療必要の理を家庭に勸告し、或は又疾病に非ずとも兒童の姿勢の惡き場合等にも家庭と連絡して之を矯正し、胸部の病氣に罹り易き素質をなほす等、凡て學校と家庭との衛生上の連絡を良く

するやうに進めねばならぬと考へます。あちらで學校衞生に熱心なる所では此連絡が甘く行つてゐて、其效果が大きいのでありますから、日本でもさう進めたいものであります。

次に又結核の豫防に關しましては單り學校に於て實施するのみならず、社會に於ける社會的豫防施設が極めて必要であります、其爲には色々の機關或は治療所のやうなものも設けなければならぬのでありまして、それに就いては本邦に於ても多くの紳士、殊に醫學に關係のある方が盡力されて居る所であります。獨逸に於て結核豫防の爲に中央委員會の組織がある。そんなやうにやつて欲しいと思ひます。もう一つ申すと、結核患者の發生したときは特に其患者に對する處置のみならず、家族に對しても結核のことに就いて看病の方法なり或は治療の方法なりを忠告する、親切に勸告するといふやうな機關も出來て居る、或は又色々の治療を目的とする講習會がある、或は又赤十字社の如きものと結核の治療の爲に連絡を取つて居る、是は日本でもさういふ仕組が近來あるやうでありますが、獨逸に於ては赤十字社といふものは非常に活動をして居るのであります。又治療所の外に恢復所も拵へなければならぬのであります。獨逸に於きましては昨年の三月第十七回結核豫防中央委員總會の報告を見ますると、近來獨逸全國に於ては結核の爲に隨分仕事をやつて居るのであります、例へば結核の治療所(Heilstätte)は全國に百四十九箇所ありまして、それに對して病牀の數が一萬五千二百七十八設けてある。是は子供でなく大人で肺結核に罹つて居るものに是れだけの病牀が與へてありまして、一年平均一人三箇月は此中で治療を受けることが出來る、卽ち一年に計算いたしますれば六萬一千人の患者が百四十九箇所の治療所に於て治療を受けることが出來るのであります。又子供に向ひましては重症の肺結核に罹つた子供を收容する場所が全國で二十七箇所あります、此處には一千二百の病牀が備へてあります。それから倘ほ子

供の爲に其他の病院（ヘイルシユテツテ）が百三箇所もありまして、此處には九千百五十七の「ベット」があります。此百三箇所の病院では腺病性竝に既に結核の危險が迫つて居る所の生徒を送ることが出來るのであります、併ながら小兒の爲めの此治療所といふものは、多くは夏の間のみ活動する裝置でありまして冬期は多くは閉ぢるのであります。それから又此林間の恢復所としては獨逸全國に百十四箇所ありまして、是は大部分矢張り夏期の用になつて居ります。是は大人竝に小兒に分けて與へることが出來まして、其中小兒の爲に設けたものゝ一部分は丁度林間學校に於けるが如き普通の學業を授業するだけの設備が出來て居るのであります。それから又林間學校は前申しましたやうに獨逸全體に十七箇ある。斯ういふ社會的の結核豫防施設といふものは固より必要であるのであります、又此結核を豫防して行かうと云ふのには固より相當の時を要するのであります。何事も時を以て始まり時を以て完了するので、獨逸の結核の豫防も初から今のやうに出來たものでない、日本に於きましても漸次さういふ氣運が向つて來て居るのでありまして、それで又之に對しては金の必要であるといふことは固より當然でありますけれども、物の成りまするのは單り金の力のみでないのでありまして、人の決心協力といふものがなくてならぬのでありますから、若しも諸君の御盡力によつて斯ういふやうな時期、卽ち各個の根本的結核豫防の實際の施設を迎へるやうな時期が來ることでありまするならば啻に此國家社會の幸福であらうと存じます。斯かる長時間御清聽を煩はしまして恐縮でありますが、どうか此事柄は平凡でありますけれども、必要缺くべからざるものと確信いたしますからして、今度どうか斯ういふ方面に就いて結核豫防の爲に御盡力あるやうに偏に希望するのであります。

シャロッテンブルグ市

市立林間學校

一、本校の目的とする所は(第一)に貧血性、腺病性、神經質、心及肺疾患兒童の輕快治療等の衞生上の企圖に在り、而して之が爲には規律的なる生活法、單純なれども滋養ある食物、新鮮且純淨なる森林空氣、十分なる日光力、噴撒浴、作業能力に對する作業の完全なる適應、作業と遊戯との規則的交換、休息及び運動等の諸項を應用す、而して一週に少くとも二回は一醫師の登校あるものとす(第二)に敎育上に對して林間學校は兒童が恢復後再び普通の市立學校に復歸するも同校に於て嘗て同級生なりし兒童に比して學力に差別なきやう敎育することを目的とす健康を障碍することなくして此目的を遂せしが爲に林間學校は次の方針によつて兒童の敎育に努力す。

各級毎週の授業時間は著しく輕減すれども一方には一級の兒童數を減少して敎師は入念に授業し以て授業時間僅少により生ずる缺點を補充する主意なり、下級に於ては毎日學科の授業は二時間、上級に於ては二時間半乃至三時間に過ぎず而して各學科就中副科は幾分か短縮すれども普通市立小學校に於ける主要學科目は悉く之を敎授するなり、各級の兒童數は平均二十名に限れり、之が爲に敎員は能く各箇兒童に對し十分に敎授することを得べし、學科の授業は三十分間の講義とし其次には必ず五分間の休憩を與ふ、而して次の三十分の後には十分間の休憩を與へ因て兒童をして疲勞を恢復せしむ、授業は可成外氣中に於て、若し降雨あれば開放せる敎室にてなす。

此方針によりて林間學校の兒童は普通學校の兒童に同じき敎育成績を達し來れり。

二、本校に收容する兒童は悉くシャロッテンブルグ市々立小學校より前記の體質條件あるものを採用す其他より採用することなし、而して其收容は學

校醫、校長、及學級擔當敎員の申込あるときは林間學校の校醫診察を經て學校委員により決定せらる、收容兒席に空席を生じたる場合には普通小學校に於て林間學校に送るべき必要ある者と認めたる豫備兒を以て補缺す。

三、始業及終業、夏は午前八時冬は九時に始む、兒童は遲くとも始業前十五分までに學校に達すべし、而して授業前に第一朝食をなし得べからしむ必ず遲刻すべからず、學校近隣に住居する者は步行して登校すべし、其他の者は市街鐵道を利用す發車時刻其他乘車の注意事項は敎員及兩親兩方より之を兒童に知らしむべし。

夕刻は兒童は大凡そ七時に退校す。

四、兒童若し疾病の爲に學校を缺席する場合には必ず遲くとも次日に敎員又は校長宛に之を屆出づべし、學校醫は其何病に罹りしやを知ることを緊要とするが故に缺席屆には常に其疾病の種類を記載すべし。

日曜日と雖ども兒童は林間學校に登るべし、蓋し林間滯在は治癒の效あるを以て可能的之を利用すべき主旨なればなり。

五、乘車割引劵、王國鐵道廳は林間學校兒童にボストエント、ヘーア町とシャロッテンブルグ市ヘーア町間の區域に對し特別月劵を二・二〇馬克(約一圓五錢)即ち普通劵より一・三五馬克を割引したるものを與ふ、而して本劵は唯林間學校長より之を求め得べし、其他の乘車劵は兩親より與ふべし。

六、兒童は常に清潔なる衣服を纏ふべし、手巾は清潔ならざるべからず、履は奇麗に磨きたるものを履くべし。

七、兒童は每日五回學校に於て食事す、十分なる分量を給し之によりて兒童は飽食することを得べし又食物は可成的變換す、主食時には肉に蔬菜又は有莢果又は米飯又は溫飩其他を添給す、日曜日には燒肉に馬鈴薯及甘煮果實を供す、其他の食時には十分に牛乳を與ふ之れ榮養狀態を良好ならしむ

るに必要なればなり。

八、市教育課は林間學校兒童の兩親に對し學校に於て給與する食事に對し代價の支拂を求む、其額につきては市は兩親の家計を調査して決定す、而して唯特別の事情ある者に限りて之を免除す。

右の支拂は每週月曜日に於てす、之に對し受取證を渡す」

九、學校訪問時刻、兒童の親族は日曜日午後二時より五時の間に學校を訪問すべし。

學校と家庭間の連絡を良好にし兒童の教育を完全になさんが爲に教員は喜んで兩親の希望又は報告を聞き及び兒童に關し兩親に注意を與ふべし。

右はシャロッテンブルグ市立林間小學校規定の大要なり演者は昨年(一九一三)十一月中旬之を參觀したり、同所には此外尙ほ中等程度の林間學校もあり。

小學校にては夏期二百三十名の兒童を收容し冬期は九十名なり。

呑ませ過ぎの習慣を改むべし

(大正三年三月三日大阪市産婆講習會講演)

長濱宗佶

皆樣の業務に直接の關係ある、學問上並に實地上の事は夫々專門の先生方から御話のあることと存じますので、私は本日も亦私共に關係のある育兒上の御話を致します。皆樣は子供を御取り上げになりますので、其際必ず父母から育兒上の質問を御うけになることがあると存じます。又其後とても育兒上の相談を御受になる機會が屢々あることと存じます、夫故皆樣は總ての家庭に於ける育兒上の顧問であり。又示導者であると云ふても宜かろうと存じます。皆樣と總ての家庭とは斯んな關係にあるのですから、育兒上何か改むべきことでもあらば、皆樣の援助を受けるのが最も捷徑であると存じまして、私は此話を致すのであります。

我國の婦人は一般に子供に乳を吞ませ過ぎるのであります、これは昔からの習慣であつて、其因襲の久しき爲め容易にこれを改めることが出來ないのであります、我國では凡そ三十年前までは主として自然榮養即ち母乳又は乳母の乳にて子供を榮養して居たのですが、今日の如く屢々人工榮養即ち牛乳又は「コンデンスミルク」にて榮養せらるゝやうになつても矢張り吞ませ過ぎの習慣がある爲めに、哺乳兒が甚だしき危害を受けつゝあることは實に明白な事實であるのです、然るに尚は一般に此の吞ませ過ぎの習慣が改まらないのは誠に遺憾の至りであります、故にこれを改むることは育兒上に於ける目下の急務であり又我々御互の義務であると信ずるのであります。我國の婦人は一般に育兒と云ふことに就て忠實でない即ち不忠實であり、又不親切であると申しても差支がないかと存じます、子供が泣けば如何なる場合でも直に乳を與へて啼き止ますのが普通であります、何故子供が啼くか、又子供の啼く原因は何處にあるかを取り調べないで、只無闇に乳を與へて無理に胡麻化して仕舞うのであります、これが抑も育兒と云ふことに就て不忠實であり又不親切であると申す所以であります。

母親に取りては子供が早く啼き止めば、夫が子供に滿足を與へたのであるから、これ程慈愛なことはないと思ふかも知れませんが、其の啼く原因も調べないで無闇に乳を與へるのは多くの場合に於ては子供の爲めに宜くないのであります、又夫が子供を苦しめる原因となることが多いのでありますから、子供に對しては却て無慈悲なことをして居るのであります、甚だしきに至りては、啼けば五月蠅さか又は己れが眠むたくても十分に眠れないからと云ふて、其の啼く原因を取り調べないで直に乳を與へて啼き止まさんとすることは屢々見聞する處であります、實に亂暴な次第ではありませんか。

何處かに痛みがあつて啼いて居ても亦寢牀や著物が窮屈で啼いて居ても直に乳を與へて啼き止まさんと

するのです、子供が啼いても夜間の睡眠中なれば已れは十分に目を覺さないで、寢牀の中で乳房を哺乳兒の口に含ませ、其のまゝ又眠り込みまして乳房で鼻と口を塞ぎて窒息せしむることが能くあるのです。又襁褓が汚れた爲め氣持が惡くて啼て居ても、其の襁褓を取り代へもせずに、只乳を與へて啼き止ますやうなことを致しますから子供の股間が糜爛ることになるのです。

熱が有つて渴して啼いて居ても、氣候が暑くて啼いて居ても、寢牀が熱くて啼いて居ても水を與へないで、寢牀も冷まさないで只乳を與へるのです。斯んな渴きのある時は子供は喜んで多量の乳を吞みますから吞み過ぎを致すのであります、又吞み過ぎて腹の心持が惡くて啼て居ても腹が痛んで啼て居ても尙ほ乳を與へて啼き止まさんとするのです、これは誠に宜くない習慣であります。

子供が泣けば必ず一通り其の原因を取り調べて夫を除いてやれば直に泣き止むのであります、これが卽ち育兒と云ふことを忠實であり又慈愛となるのです、然るにそんなことを五月蠅がり、又面倒がりて其原因を少しも調べないで、只無闇に乳を與へるのが普通であります誠に宜くない習慣であります。

斯の如く泣けば與へると云ふ風に不規律に乳を吞ませ過ぎになります、卽ち過剩榮養になりまして子供は吐乳いたします。吞んだ乳が適當な分量であれば胃液の中に鹽酸は、其の乳の消化には全く消費せられないで幾分か餘りが出來るのです、此の餘りの鹽酸が黴菌を殺す力を持つて居ます、又腸の消化液たる膽汁や膵液の分泌を促す作用を持つて居るのです、然るに過剩榮養の場合卽ち吞ませ過ぎになりますと此鹽酸の餘りが出來ないから胃内に於ける殺菌力がなくなる、又腸の消化液の分泌を促すものがなくなるから腸の消化力も減ずることになるので乳が十分に消化しないで腐敗することがある、これが又原因となりて、腸を害し腹痛を發したり下痢をすることになるのです。

斯んな工合にして消化不良症が起りますと餘計に乳を呑んでもその乳が十分に身につかないから身體は割合に肥滿しない、のみならず皮膚は蒼白色となつて不機嫌になります、此狀態が長く續いて居ると高洲博士の如きは其の子供が夏になりて、丁度生齒期に達する頃には、能く所謂腦膜炎に罹ると言ふて居られます、即ち高洲博士は呑ませ過ぎが長く續いて居ると所謂腦膜炎になるとまで云ふて居られるのであります。

牛乳榮養又は「コンデンスミルク」榮養の場合にはこの呑ませ過ぎ即ち過剩榮養が實に恐るべき危害を哺乳兒に與へるのであります、若し呑ませ過ぎて哺乳兒が既に吐乳や下痢を來たし消化不良症を發せば牛乳や「コンデンスミルク」の分量を思ひ切つて平素の半分又は三分の一位に減せなければ、醫師の治療を受けても容易に治らならのです、然るにこの際矢張り平素の通り牛乳や「コンデンスミルク」を與へるとか、又呑ませ過ぎると牛乳中の脂肪や糖分が腸內で腐敗しその腐敗產物が食餌性中毒を起すから終には救ふべからざる狀態に陷るのであります。これは私共が屢々實見する處であります、實に恐るべきことではありませんか。

斯の如くでありますから啼けば乳を與へると云ふことは中々慈愛ところではなくて、却て多くは子供を苦しめることになるのであります、又それが爲め屢々死に陷らしめることになるのでありますから、婦人は育兒と云ふことに就いては極めて忠實にあつて貰ひたいたとへ繁忙であつても亦眠むたくても出來るだけ我慢して、哺乳兒が啼けば必ず一通りは其の原因を取り調べて除くことの出來るものならば直に夫を除いてやり、無闇に乳を與へないやうに注意するのが即ち育兒と云ふことに就て忠實であり又眞に慈愛と云ふことになるのであります。

私共の診察治療する哺乳兒の殆ど半分以上は腸胃の病氣であります、それ故に授乳の規律を嚴重に守り、決して泣いたからと云ふて無闇に乳を吞まさな

いやうに皆様が御實行くださつて倘者様が御取り上げになつた子供の両親に對しても斯くあらんことを懇々と御諭し下さらんことを希望いたします。先月二十八日、即ち今より四日前に生後十九日目の子供を診察いたしました、子供は機嫌が悪くてよく泣き時々吐乳すると云ふ訴へでありました、詳しく容態を尋ねて見ますと、母乳が少ないので初めから牛乳を與へて居ります、生後六日目の入浴の際に産婆が初生兒の腹は非常に膨大して居るのが普通である、然るに此の子供の腹は割合に小さくて軟らかい、これは多分乳が足らない爲めだろうと云はれたので其後は牛乳の分量を増して與へることに致しました、處が其後は子供が不機嫌で一層能く泣きますので乳の分量がまだ足らないのかと思ひまして、段々増しに増量して一昨日よりは三時間目に牛乳一分と水三分との混合液を一八〇瓦即ち一合宛與へて居ります、然るに尚ほ子供はよく泣きますので困つて居ると云はれました、實に驚かざるを得ないのであります。

御承知の通り初生兒の胃の容積は凡そ二五乃至四五立方「センチメートル」であります、而して生後二週乃至三週に於ける子供の一回の哺乳量は通例五〇乃至七五瓦であります、然るにこの子供は三時間目一八〇瓦と云ふ大量即ち一合も一回に與へて居たのであります、實に驚かざるを得ないのであります。」斯んな著しき例は餘り無いと存じますが、斯んな工合に乳を與へても子供が泣けばまだ乳が不足だろうと考へて段々に乳の分量を餘計に與へると云ふことは屢々實見することであります、實に戒めなければならんことゝ存じます、皆様はこの點にも能く御注意下すつて皆様の御取り上げになつた子供の両親にも斯んな工合に呑まし過ぎをなさぬやう懇々と御戒め下さらんことを希望いたします。

母親の不注意によりて起れる子供の病氣に關する實驗報告

本誌第二百九十一號に於て、右標題の如き實驗報告を歡迎する旨の廣告に對し、今回唐澤博士に宛てられたる報告を順次こゝに揭げて、母親相互の參考に供すべし

新潟市　○坂○り○

一、私は妊娠八箇月のとき不注意から長途の汽車旅行を致しました爲め遂に月足らずの子を產みました。それが又色々の心配からと思ひますが乳不足になりまして、その小兒は遂に小兒消耗症で死亡致しました。實に心配も障りますし、又早く人工榮養にも氣がつきませんでした。

△編輯子曰く、妊娠の後半期に入つて汽車旅行等をなし烈しく身體を動搖すれば、實際早產することがあると云ふことです。又心配事などがあれば乳の分泌が減ずることもあるそうです。小兒消耗症と云ふのは「アトレプシー」と云ふ病氣のことでありませうか、それなれば人工榮養の小兒に多いと申すことですから、自分の乳が不足ならば乳媼を雇うか、然らざれば非常に注意して牛乳で養はなければならぬと思ひます。然しこれだけのことに氣がつく人なれば、今後は決して失敗するやうな氣遣は無いと信じます。

二、次は生後百八十日の小兒（男子）でありましたが、生來弱いと見えまして、俗に云ふ糞ヅマリと云ふ樣な病氣（腸の狹窄症とか捻轉とか）で大層難儀を致しましたが、それもどうにか癒りましたに、或日四十度からの熱が出ました、大方感冒であらう、已に夕方でありましたから、明日診察を願はんものと其夜急に應じ、豫て前にも服した分量の「ザルソー」を服まして休みました所が、眼醒めて見たとき、圖らんや已に口にくわいた瓶の乳を悉く飲み乾し、晏如として、何等苦悶の風もなく仰臥のまゝ手足も動かしたるでもなく永眠に就て居りまして、實に驚きました。死後膿性の天疱

瘡を小兒醫が發見されまして、死因は是だと申されましたけれども、私は高熱の爲め或は心臓痲痺を起したのでなかつたか、氷嚢等の手當をせなくて惡かつたと幾日も泣き通しました。不幸にして乳不足で、皆人工榮養ですが、器具の不潔、乳汁の腐敗から夏などは折々胃腸「カタール」を起させます。

天疱瘡と云ふのは少數で、うつかりして居りました。天疱瘡の內容は始澄み、後に濁りました。無熱でした。

△編輯子曰く、腸狹窄或は捻轉等の症狀を發して癒つたとは非常に僥倖と思ひます。乳兒の眞の天疱瘡と云ふものは頗る稀なやうに聞いて居ります、傳染性膿疱疹と云ふものは隨分小兒にあるそうですが、これは腎臓炎などを惹起すと云ふことですけれども、別に高熱を發して、それが爲に急に死亡するなどと云ふことは餘り聞かぬことであります。何れの病氣でも非常に高熱が續けば心臓の痲痺も來りませう、左樣な場合には實際氷嚢を貼てる必要もあります、然し氷嚢を用ひなかつた許りに死亡されたのでありますまい、種々の原因が働いたので、母親の不注意と云ふわけでは決してなからうと思ひますが、斯く醫者も及ばぬ程、細やかな注意をさるゝ以上は、先々天命とお諦らめになつて宜しからうと存じます。

家庭衛生

鼠を退治せよ

醫學士　中村芳助

苟も人間の居る處には世界中鼠の居らぬ所はない、家の中は勿論、野にも畑にも棲むで居りまして、人間の數よりは遙に多い、而してその食物も他の動物のやうに範圍が狹くない、植物性のものでも動物性のものでも、何でも喰ふ、甚だしいことには鑛物性のものまでも噛るのであります、卽ち瓦斯管

を嚙つて孔をあけ、そこから瓦斯が漏れて危險を來すと云ふやうなことがある、鼠は水を飲まぬとか、海草類を食はぬとか申しますが、誤りである、水は常に飲むで居る、海草類も特別に好きではないかも知れませんが、兎に角昆布や海苔も少々は嚙ることは確かである、鼠が斯様に何でも喰ひ、何處にも出入すると云ふことは家屋、家具を毀損し、食料を盜み、經濟上の損害が莫大なるのみならず、人間の糞便や喀痰等を喰ひ或は動物の屍骸までも喰ふ、而して斯様な不潔な場所に行つた足、斯様な汚らはしい物を喰ふた口をもつて人間の住家に侵入して來る、而して人間の食物に口をつけるのであります。これを考へましたならば、如何に鼠の危險なものであるかが分かるであらうと思ひます。

ペストと鼠は離るべからざる關係を有つて居ることは今日十分明かになつて居りますが、右のやうな次第であるから、決してペストには限りません、虎列刺でも窒扶斯でも如何なる病原菌でも傳播する、鼠はその傳染病に罹からぬとしても、前に云ふ通り糞便も喰ひ喀痰も喰ふものであるから、如何なる病毒でも持運ぶのであります。傳染病の媒介者としては決して蠅に劣らぬ有害危險の動物である、蠅は窓さへ閉づれば室内に入らぬ、追出すことも容易である、食物も少しく注意さへすれば決して蠅を止めぬことが困難でない、且つ一定の時期に限る、又夜は飛ばない、然るに鼠に至つては時期を問はず晝夜に拘らず、何處如何なる所からでも人家に侵入し、有ゆる惡戯を働く、而して敏捷狡猾な動物でなか〳〵蠅を捕へるやうなわけには行きません、且つその繁殖力は非常なもので、受胎期間が短いのに、一年數回も子を產む、而かも一回に五六匹、多い場合には二十匹以上も產むことがあります、それは所謂鼠產で以て、それだけの子が忽ち又それだけの數の子を產みますから、繁殖することは實に驚くべきものである、種類に依ても違ひますが、家鼠は一匹の親から一年間に百八匹生れる、野鼠はこれよりも更に多く

百九十八匹生れる割合だと申しますから、この割合で計算して見ると四年目には家鼠の方は百七十六萬三千四百匹、野鼠の方では一億一千六百八十三萬七千九百二十匹と云ふ數になる、斯樣な繁殖力を有して居る鼠が現に何の位居るか分からぬ、近年、捕鼠奬勵の爲めに買上げた鼠は、全體の鼠の數に比しては極めて少數でありませうが、それでも例へば東京だけで明治三十八年から四十二年まで五箇年間に買上げた鼠の數は八百二十一萬匹で、今一匹の鼠の頭から尾の端までの長さを約八寸として、これだけの鼠を繋ぎ合はせると六百八十里の長さになると云ふことであります、此の外の捕まらぬ實際の鼠の數は更に幾倍居るか殆ど想像がつかぬ、それが悉く吾々に仇をなして居るのであるから、たまりませぬ。單に經濟上の損害だけでも、精密に計算することが出來たならば、誰でもこれは退治しなければならぬと云ふ氣になるでありませうが、昔からこの損害に慣れてゐるので當然のことの如く考へて、平氣で居るのであらうと思はれる、現に亞米利加でインヂアナ州のある學校で、亞米利加合衆國には人一人に對して鼠四五匹の割合に居ると云ふ調査を發表致しました、これから計算を立てゝ見ると米國には毎日五億頭以上の鼠の跋扈してゐる割合で、一頭の鼠の盜食する食物の價を假に四錢とすれば、一箇年に十四圓六十錢、それが五億頭とすると實に七十三億圓に上るを以て、これは經濟上にも衞生上にも由々しき大問題であると云ふので、インヂアナ州では衞生局のハーデー博士と云ふ人の監督の下に、同州の公立學校に於ては一般に鼠の經濟上並に衞生上に及ぼす危害に就て研究せしむることゝし、又これが爲に法律を制定して驅鼠を勵行し、何れの學校にも、特に鼠に關する繪畫又は教科書等を備へて、兒童に鼠の生活狀態及びその人類に及ぼす危害等に就て教へて居ると云ふことであります。これは我邦でも必要のことであらうと思はれる。鼠に對して寛大なのは、確かに鼠の生活、その性質を知らぬからのこで

ある、鼠ばかりは害あつて利が無い、鼠は醫學上で種々の實驗用に便利な位のもので、その他には殆ど役に立たぬ、僅かに小兒の慰み或に巴里籠城の時に鼠を食ふたなどゝ云ふ話もありますが、小兒の玩弄物としては危險な玩弄物であり、又何時も飢饉や籠城の爲に鼠を飼養して置くべきものでありませんから、鼠は人間の爲には遂に無益有害の動物である、特に今日の如くペストなどが流行するときには、最も恐るべき動物で、全力を盡してこれが退治に努めなければなりませぬ、鼠退治が十分に出來なければ從つてペスト豫防も十分には出來ないのであります。

目下千葉縣にペスト患者が發生し、而かも肺ペストであると云ふことであります。傳染病の中でも肺ペスト程性質の惡いものはない、これに對して完全な豫防法を構ずることは甚だ以て困難である、これには法律で定められて居る所の傳染病豫防法に據て、嚴重に公衆衛生的の豫防法を勵行すべきは勿論で、當局に於ても此際をさ／＼怠りはない、出來得るだけの力を盡して撲滅策に努めては居りますが、各家に於て個人／＼が一般の衛生に氣を付ける外に、眞面目に鼠退治をすることが甚だ必要であらうと思ふのであります。

普通の家々で鼠を退治致しますのには、通常廣く用ひられてゐる種々の捕鼠器を應用する、それから坊間に販賣されて居る殺鼠劑を喰はすのも一方である、但し殺鼠劑は大抵「ストリキニーチ」或は砒素、燐と云ふやうな危險な劇毒藥が多いのでありますから、これを用うる場合には小兒又は他の家畜などが過つて食はぬやうに特に氣を付けることが必要であります。又海葱は鼠には毒であるが他の家畜や雞などは死なぬから良いと云ふことであります。それから麥芽に石灰を混せて鼠の穴や便所に置けば鼠は麥芽で引つけられ、石灰を喰つて死ぬと申します。多數の鼠が居る處なれば、硫化炭素を檻褸布に浸して鼠穴に詰め、その上を少し藥で以て覆ひ、その上

は土を少し掛けて置けば、硫化炭素現斯が穴の下に這入つて行つて悉く鼠を殺します、但し硫化炭素は火の危險がありますから、晝でなければ行はれない、人が番をしてゐなければなりませぬ。船などでは硫黄、炭酸瓦斯、一酸化炭素瓦斯等を應用して鼠を退治して居ります。又近頃では鼠の窒扶斯菌を應用して鼠を退治致します、これは野鼠には宜しいが、家鼠には餘り確實でないと云ふことであります。機械も、藥劑も、黴菌も總て鼠の食慾を利用してこれを捕へ或は殺すのでありますが、この外に自然の敵を利用することも出來ます、例へば、蛇類又鷹や鳶殊に夜間に活動する所の梟などは鼠を捕ふることが上手で、鼠を好んで喰ふものである、獸類では狐、狸、鼬などは能く鼠を捕へますから、農家では此等のものを利用して野鼠を退治することが出來ませう。併し家の內に飼養して置くわけには行きません家の內の捕鼠獸としては古來有名な猫と云ふものが居ります、これは何人も御存知の通り先天的に鼠を捕へることが上手で、猫の本職は鼠を捕へることであると云はれて居ります。それで昔埃及人は非常に猫を大切にして神様の部類として祭りました、希臘あたりでも法律でもつて猫を保護して、猫を殺したものは罰金を科せられたと云ふことであります。ここに面白い話は、印度人は鼠を神の御使として大切にし、猫を嫌つて居る、これに反して回々教徒は猫を神聖なものとして愛護してゐる。それで印度にはペストが流行するけれども、猫を大切にする回々教徒の中には曾てペストは流行したことが無いと申します。それでブカナンと云ふ醫師がこの事に氣がついてペストの流行と猫との關係を調べて見た所が百戸に對して猫五十頭以上居る部落にはペストは侵入せぬと云ふことを確めたそうであります。嘗て驅鼠獎勵の必要から內務省で以て日本國內の猫調べをしたことがありますが、その時の調べによると、福島、長崎、山形の三縣下には戸數百に付いて飼猫數が約五十頭ある、東京、大阪の二府、及び山口縣では二

十頭にも達して居りませぬ。一番猫の少ない所は下關で、それから東京、神戸、大阪等で、何れも百戸に付き猫が十頭以上であつた。單に猫のみの關係でもありますまいが、實際これで見ても猫の少ない所にペストが流行した譯であります。今は故人となつた細菌學の泰斗なるコッホ博士が日本に來遊された時にも、頻りに飼猫を奬勵されたのも尤な次第であると思はれます。

ペストを完全に豫防致しますには、何うしてもこの鼠を退治することが必要なのでありますから、ペストが發生した、それ鼠を捕れと云ふたのではなかなか間に合ひませぬ。平素から心掛けて鼠を退治しなければならぬのであります。それで種々の捕鼠器や、殺鼠劑を用うることも勿論結構であるが、もつと根本的に廣く考へれば、農家では困難でありませうが、都會の家では出來得るだけ鼠が棲むことの出來ぬやうに建築に注意し、倘ほ家の内には一切鼠の食物の無いやうに、屋敷の隅々まで清潔にすれば、食物を得られぬ所には鼠は來ないのであります。それから戸毎に猫を飼ふと云ふことが、最も廣く簡便に鼠を防ぎ得る手段であらうと思はれる。ペスト發生の聲を聞きまして、こゝに聊か御參考までに鼠退治のことを申上げた次第であります。

雜報



○御大喪に關する一般心得

御大喪につき一般心得左の如く內閣より公示されたり。

▲大喪天皇　皇太后ノ喪ニ丁ル時ハ大喪トス

大喪ニハ皇族及臣民喪ニ服ス

皇太后ノ爲ニスル大喪ヲ諒闇トス

諒闇ノ期間ハ一年ニシテ三期ニ分ツ第一期、第二期ハ各五十日トシ殘ル日數ヲ以テ第三期トス

▲喪服　喪服ハ皇室喪服規程ニヨリ喪裝ノ種類、喪期ノ區分ニ從ヒ左ノ制式ニ依ル（制式略）陸海軍ノ下士及兵卒ハ喪章ヲ附セザル

コトヲ得
皇室喪服規程ニ列擧セル種類外ノ服裝ニツイテハ大正元年閣令第二號ニヨリ大喪第一期中ノ喪章左ノ如シ
○和服○ 衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黒布ヲ附ス
○洋服○ 左腕ニ黒布ヲ纏フ
▲國旗 大喪中國旗ヲ掲揚スルトキハ大正元年閣令第一號ニ依リ竿球ハ黒布ヲ以テ之ヲ覆ヒ旗竿ノ上部ニ黒布ヲ附ス
▲廢朝 廢朝ハ政務ヲ廢セラルヽノ儀ニ非ズ從テ官廳事務竝ニ諸學校授業ハ休停、休暇セズ
廢朝中ハ大正元年勅令第二號ニヨリ囚人ノ服役ヲ特免シ死刑及笞刑ノ執行竝ニ歌舞音曲ヲ停止ス

○御所の惡疫豫防

近來發疹窒扶斯猖獗を極め、又肺ペスト發生せるより宮内省にては萬一のことありてはと、十七日より大手門内升形の中に二間に五間の天幕を張り、之に鯨幕を廻らし、臨時消毒所となし、毎日午前七時より午後五時まで出入の商人、車夫、馬丁、人夫等に對し、健康診斷及び消毒を施すことゝなり、石井消毒課長が主任に、侍醫寮御用掛岡醫學士、中央衞生試驗所技師和田醫學士外醫員數名出張、之れに當り居れるが、此外青山御所を初め各御所、離宮にても同樣出入人の健康診斷竝に消毒を施行することゝなれり、尙ほ此際御所内の捕鼠を奬勵する爲、鼠一匹に付十五錢宛の賞を懸けることゝなれり。

尙ほ近衞第一兩師團にても惡疫豫防の爲、十六日より在京軍隊全部の健康診斷を行ひ尙ほ十七日より各營門内に消毒所を設け出入一切の人々に對し健康診斷竝に消毒を施し居れり。

內譯

金參千貳百四拾八圓四拾五錢八厘　前年度より越高
金千七百六拾八圓九拾貳錢五厘　會費
金百四拾四圓五拾貳錢　寄附及懇親會費廣告料
金百五拾圓五拾參錢　預金利子
金拾錢　雜收入

支出

一金貳千七拾參圓拾八錢壹厘

內譯

金五百七拾六圓七錢　報酬及雜給
金參拾五錢　備品費
金八百八拾貳圓五拾六錢五厘　圖書及印刷費
金壹圓貳拾九錢　筆紙墨文具
金貳圓五拾五錢　消耗品
金七拾九圓七錢六厘　通信運搬費
金百七拾八圓四拾參錢　集會費
金五拾貳圓八拾六錢　雜費
金參百圓　借家料

收支差引殘

一金參千貳百參拾九圓參拾四錢貳厘

內譯

金參千圓　三井銀行預金
金百壹圓六錢　東京貯藏銀行京橋支店同上
金貳拾貳圓七錢　振替貯金
金五拾圓　借家料
金六拾六圓貳拾壹錢貳厘　手許有高

以上

○本會入會者

○守屋千代子紹介
●横須賀市大瀧町　特別會員　岡本仲子
●岡山縣備中王島町　特別會員　大西親子
●廣島縣沼隈郡本郷村　通常會員　金原重代子

○事務所申込
●牛込區南町　通常會員　島崎愈子
●呉市八幡上通り一八三六五　通常會員　佐藤貞子

○新潟支會入會者

○鏡淵りう子紹介
●　特別會員　安村れい子

○轉居

●牛込區市ヶ谷田町谷氏邸内へ　服部仲子
●府下中澁谷三五五へ　岡崎いし子
●福岡市大石町八〇へ　日下玖子
●本郷區新花町四三へ　呉光子
●府下高田村四ッ家町三二七久須美別邸へ　大館きみ子
●四谷區仲町三ノ二三へ　春田隆子

前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	貳匁四分
壹尺貳寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



▲第十五回衛生事務講習生募集▼

一講習期　自大正三年七月一日　至大正三年九月三十日

一募集人員　五十名

一講習科目　衛生學大意、衛生統計ノ大意、衛生ニ關スル法令、黴菌學大意、傳染病豫防消毒實施法、船舶汽車檢疫傳染病院構造及取締法、營造物及飲食物檢査法大意、衛生ニ關スル營造物及工事ノ實施、救急法大意、科外講義

一講習料　金拾圓

一申込期限　大正三年六月十五日迄

大正三年四月一日

東京市麹町區大手町一丁目

大日本私立衛生會

注意
募集定員ニ超過シタルトキハ入所ヲ謝絶スルコトアルベシ
規則書入用ノ方ハ郵券貳錢同封申込マルベシ

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子

同 岡田徳子

同 山本多穂子

同 松平芳子

評議員 石川貞子

同 濱田捨子

同 服部繁子

同 西舛子

同 緒方悦子

同 小川孝子

同 片山龜子

同 丹波貞子

同 田村きよ子

同 男爵夫人 南部隈子

同 山口貞子

同 古市幸子

同 岸澄子

同 三宅藤子

同 宮下咲子

同 羽田三緒子

同 高木鍒子

同 三浦敬子

同 岩下ゆか子

同 長谷川仲子

同 仁禮壽賀子

同 土肥多越子

同 岡山とし子

同 男爵夫人 加藤鈴子

同 吉武輝枝子

同 高橋孝子

同 鵜原誠子

同 中濱芳子

同 子爵夫人 松井正子

同 伯爵夫人 阿部篤子

同 菊池峯子

同 宮本樂子

同 守屋千代子

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵税壹錢

三冊（三ヶ月分） 前金郵税共 金四拾五錢

十二冊（一ヶ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字

壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢

○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年四月十七日印刷
大正三年四月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 東京明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店